航空自衛隊の概要 ～2024年度版～

大空とその先へ

～To the Sky and Beyond～

航空幕僚監部

航空自衛隊 ～空と宇宙を守る唯一の組織～

航空自衛隊が「守る」領域

領土・領海・領空

宇宙・サイバー・電磁波

航空防衛力を構成する主な部隊

戦闘機部隊

航空警戒管制部隊

地対空誘導弾部隊

宇宙領域専門部隊

航空輸送部隊

航空救難部隊

日米同盟

各国との防衛協力・交流

隊員の活躍

70th history

昭和

1954年（昭和29年）
- 航空自衛隊創設

航空幕僚監部開庁式における上村空幕長訓示

1955年（昭和30年）
- T-33練習機操縦学生5人が卒業
  日本初のジェット機パイロット誕生
  （築城）

1958年（昭和33年）
- 対領空侵犯措置を開始
- 初スクランブル

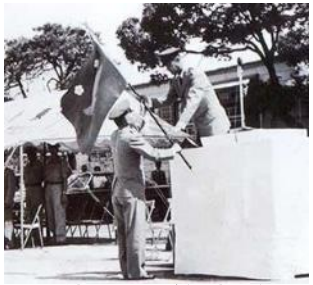
防空演習で緊急発進の訓練をする隊員

- 航空集団を航空総隊に改編、北部・中部航空方面隊を編成

中部航空方面隊の編成式

1959年（昭和34年）
- 伊勢湾台風において災害派遣を実施

1961年（昭和36年）
- 西部航空方面隊を編成（春日）



西部航空方面隊編成完結式

1964年（昭和39年）
- 東京オリンピック開会式でF-86Fブルーインパルス5機が五輪のマークを描く

大空に描かれた五輪のマーク

1973年（昭和48年）
- 南西航空混成団を編成（那覇）

南西航空混成団編成完結式

沖縄返還（1972年）

雫石事故（1971年）

MiG-25事件（1976年）

1974年（昭和49年）
- 女性自衛官3名誕生

航空幕僚長に挨拶する女性自衛官

1978年（昭和53年）
- 初の日米共同訓練
  「コープ・ノース」（三沢）

1988年（昭和63年）
- 初の海外訓練（C-130H）
  「エアリフト・ロデオ」（ポープ空軍基地）

平成

70年 history

1989年（平成元年）

➢航空支援集団、航空教育集団、航空開発実験集団を新設

栄誉礼を受ける初代航空支援集団司令官

1997年（平成9年）

➢女性自衛官初のウィングマーク取得

航空き章（操縦士）

2001年（平成13年）

➢テロ対策特措法に基づく活動（～2007年11月）

テロ対策特措法に基づく空輸活動

2004年（平成16年）

➢イラク人道復興支援派遣輸送航空隊、クウェートへ出発

➢初の在外邦人等輸送として、イラクからクウェートへ邦人10名を輸送

➢航空自衛隊創設50周年記念式典（入間）

家族、隊員らに見送られ出発するC-130H

空自50周年ロゴマーク

冷戦終結（1989年）

阪神淡路大震災（1995年）

同時多発テロ（9.11）（2001年）

東日本大震災（2011年）

クリミア併合（2014年）

1992年（平成4年）

➢我が国初の国際平和維持活動となる、カンボジア国際平和協力業務（～1993年9月）

カンボジア派遣部隊の編成完結式

1999年（平成11年）

➢戦闘機初の海外訓練（F-15、E-2C）「コープ・ノース・グアム」

2003年（平成15年）

➢イラク人道復興支援活動（～2009年2月）

小泉総理（当時）の激励を受ける派遣隊員（H15.12.24 小牧）

2012年（平成24年）

➢航空総隊司令部、横田基地に移転

航空総隊司令部の運用開始行事

2016年（平成28年）
➢日英共同訓練
「ガーディアン・ノース16」
米国以外の国と実施する初の国内共同訓練

初の日英共同訓練

2018年（平成30年）
➢航空自衛隊初の女性戦闘機操縦者の誕生（新田原）

初の女性戦闘機操縦者

2021（令和3年）
➢東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会支援

オリンピック開会式

T-4ブルーインパルス飛行展示

2023（令和5年）
➢自衛隊入間病院を新編（入間）
➢航空自衛隊のF-35Aによる初の国外機動展開訓練
（米国（グアム）・豪州）

ティンダル空軍基地到着

豪空軍飛行隊長による出迎え

熊本地震（2016年）

新型コロナウイルス感染症（2020年）

ウクライナ侵略（2022年）

能登半島地震（2024年）

2017年（平成29年）
➢南西航空方面隊を新編

南西航空方面隊編制完結式

2020年（令和2年）
➢新型コロナウイルス感染症拡大防止、水際対策強化に伴う災害派遣
➢宇宙作戦隊を新編（府中）

宇宙作戦隊新編行事

2022年（令和4年）
➢戦後初となる東南アジア地域への戦闘機派遣
（F-15、フィリピン）
➢宇宙作戦群を新編（府中）
➢偵察航空隊（グローバルホーク（RQ－4B））を新編（三沢）

派遣されたF-15

グローバルホーク

2024年（令和6年）
➢創設70周年

空自70周年ロゴマーク

航空自衛隊70周年キャッチフレーズ及びロゴマーク

大空とその先へ
～To the Sky and Beyond～

- 「宇宙」を背景とし、線は、サイバー及び電磁波、各装備品との連結性を表現。
- 航空自衛隊が守るべき対象である日本を背景に、航空作戦の中核となる航空方面隊司令部所在地に4つの点を配置して、我が国の空を守る決意を表現
- 70の文字の中で、「0」は任務領域が宇宙へ拡大する様子を地球と地球を取り囲む衛星、月、星空を表現
- 航空宇宙自衛隊への進化及び爽やかでチャレンジ精神旺盛な航空自衛隊をイメージ
- 「大空」は、人類が空に思い描く、夢、希望、挑戦などをイメージし、「その先へ」により引き続き挑戦を続けていく決意を表現
- 「大空とその先へ」は、航空自衛隊の任務領域の空に加えて宇宙まで任務領域が拡大することに対する決意を示す

内容

Ⅰ　我が国を取り巻く安全保障環境

Ⅱ　航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等

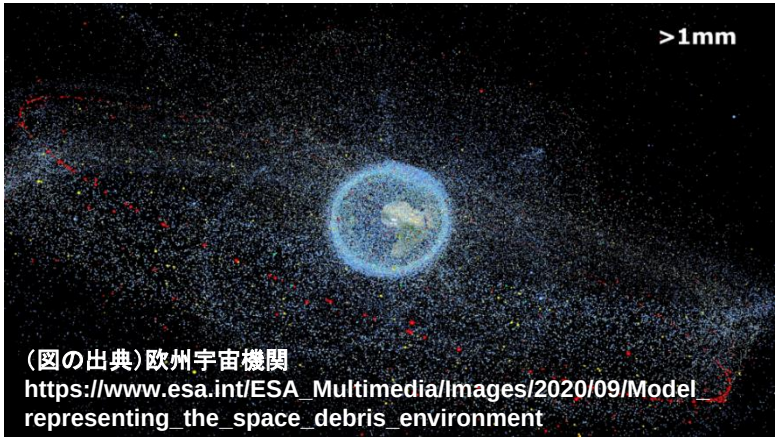
Ⅲ　航空自衛隊の将来体制の方向性

Ⅳ　トピックス

Ⅰ　我が国を取り巻く安全保障環境

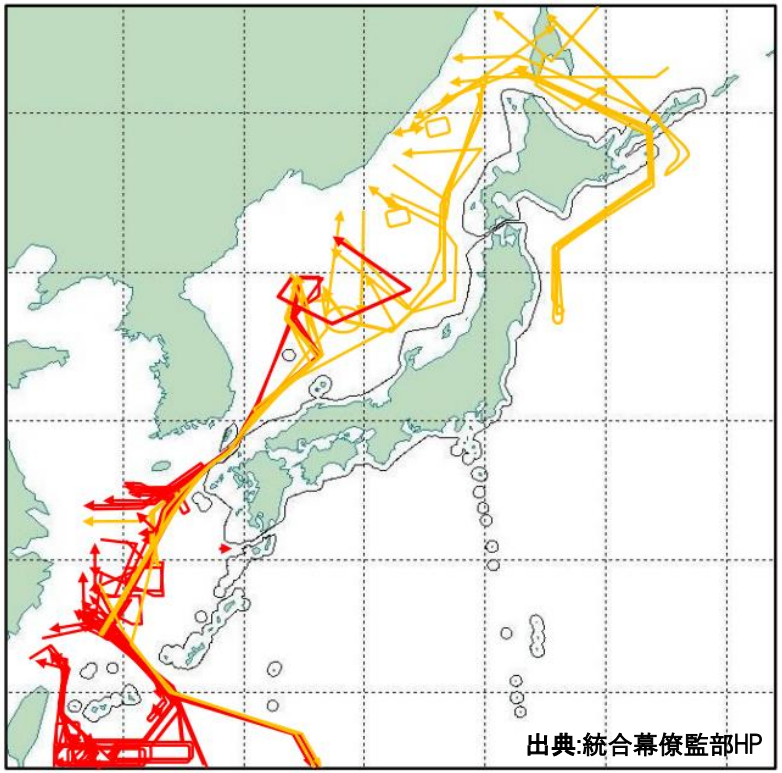
1　現在の安全保障環境の特徴

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況



（図の出典）欧州宇宙機関
https://www.esa.int/ESA_Multimedia/Images/2020/09/Model_representing_the_space_debris_environment

【緊急発進の対象となった飛行パターン例（2023年度）】

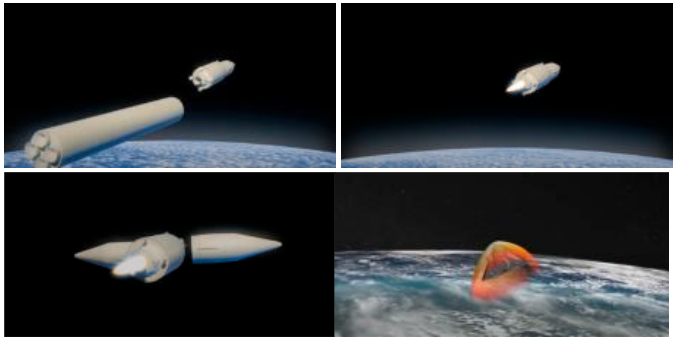


：中国機　：ロシア機

1　現在の安全保障環境の特徴(1/3)

- ➢力による一方的な現状変更やその試みは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序に対する深刻な挑戦であり、国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しつつある
- ➢科学技術の急速な進展が安全保障のあり方を根本的に変化させ、いわゆるゲーム・チェンジャーとなりうる先端技術の開発を実施、従来の軍隊の構造や戦い方に根本的な変化が生じている
- ➢サイバー領域などにおけるリスクの深刻化、偽情報の拡散を含む情報戦の展開、気候変動などのグローバルな安全保障上の課題も存在
- ➢サプライチェーンの脆弱性、重要インフラへの脅威の増大など 、安全保障の対象が経済分野にまで拡大

米空軍　高出力マイクロ波兵器THOR



ロシア
極超音速滑空兵器アヴァンガルド

ロシア　海上発射型の
極超音速巡航ミサイル　ツィルコン

情報戦の一例(ウクライナ)

救助活動を行うパキスタン兵

出典:令和5年版防衛白書

1　現在の安全保障環境の特徴(2/3)

「インド太平洋地域は、安全保障上の課題が多い地域」

➢核兵器を含む大規模な軍事力を有し、普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家や地域が複数存在

➢歴史的な経緯を背景とする外交関係等が複雑に絡み合う地域

➢東シナ海、南シナ海等における領域に関する一方的な現状変更及びその試み、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害等の様々な種類と烈度の脅威や課題が存在

沖縄・宮古島間を通過した中国軍の偵察型無人機(2023年1月)

出典：令和5年版防衛白書

1　現在の安全保障環境の特徴(3/3)

ロシアによるウクライナ侵略

➢2022年2月24日、ロシアはウクライナに対する全面的な侵略を開始

➢力による一方的な現状変更は、アジアを含む国際秩序の根幹を揺るがす行為

出典：令和5年防衛白書

出典：令和5年防衛白書

実際のミサイルの破片

ガザ情勢

➢2023年10月7日、ハマス等のパレスチナ武装勢力が、ガザ地区からイスラエルに向けて多数のロケット弾を発射、イスラエル領内に越境攻撃

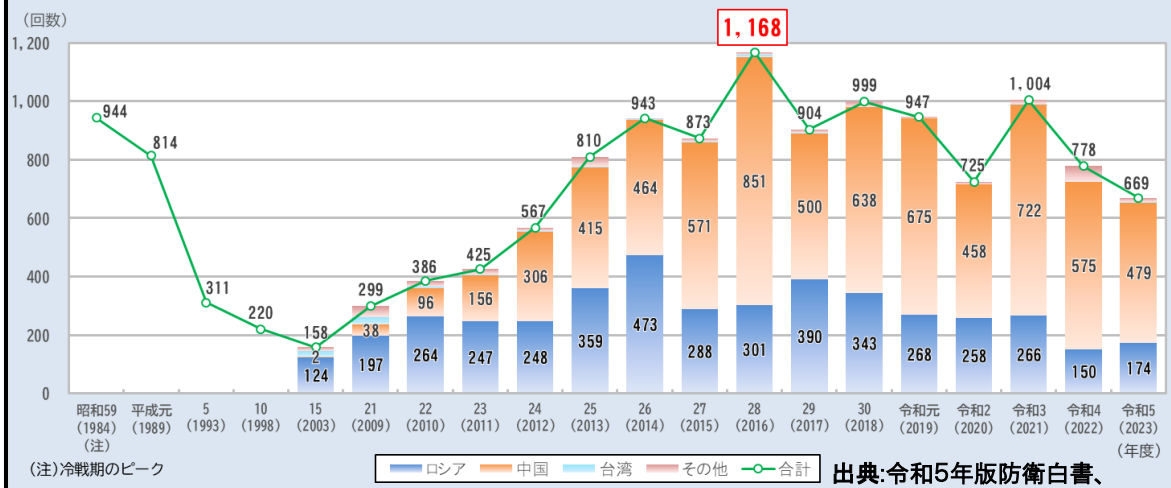
出典：
(左)NHK国際ニュースナビ　2023年11月29日記事引用
https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/feature/2023/11/29/36150.html
(右)CNN.co.jp 2024年1月2日記事引用
https://www.cnn.co.jp/world/35213392.html

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（1/11）：緊急発進

➢2023年度の緊急発進回数は669回

➢2013年度以降、年度全体の緊急発進回数は概ね700回を超える高い水準で推移

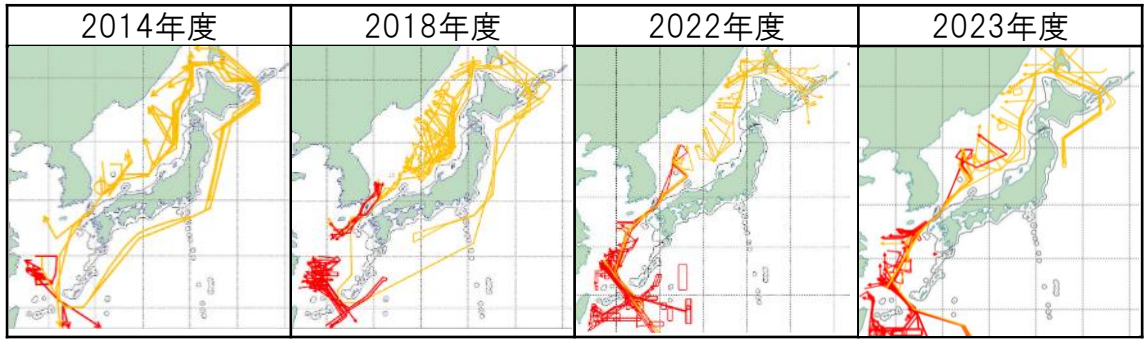
冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳



（注）冷戦期のピーク

出典:令和5年版防衛白書、統合幕僚監部HPを基に作成

中国機とロシア機の活動範囲、活動量の推移



→：中国機　→：ロシア機

出典:統合幕僚監部HP

ロシア機

爆撃機等

（2023年6月7日撮影）

情報収集機

（2023年10月24日撮影）

中国機

戦闘機

（2023年12月14日撮影）

情報収集機

（2023年10月27日撮影）

無人機

（2023年8月28日撮影）

爆撃機

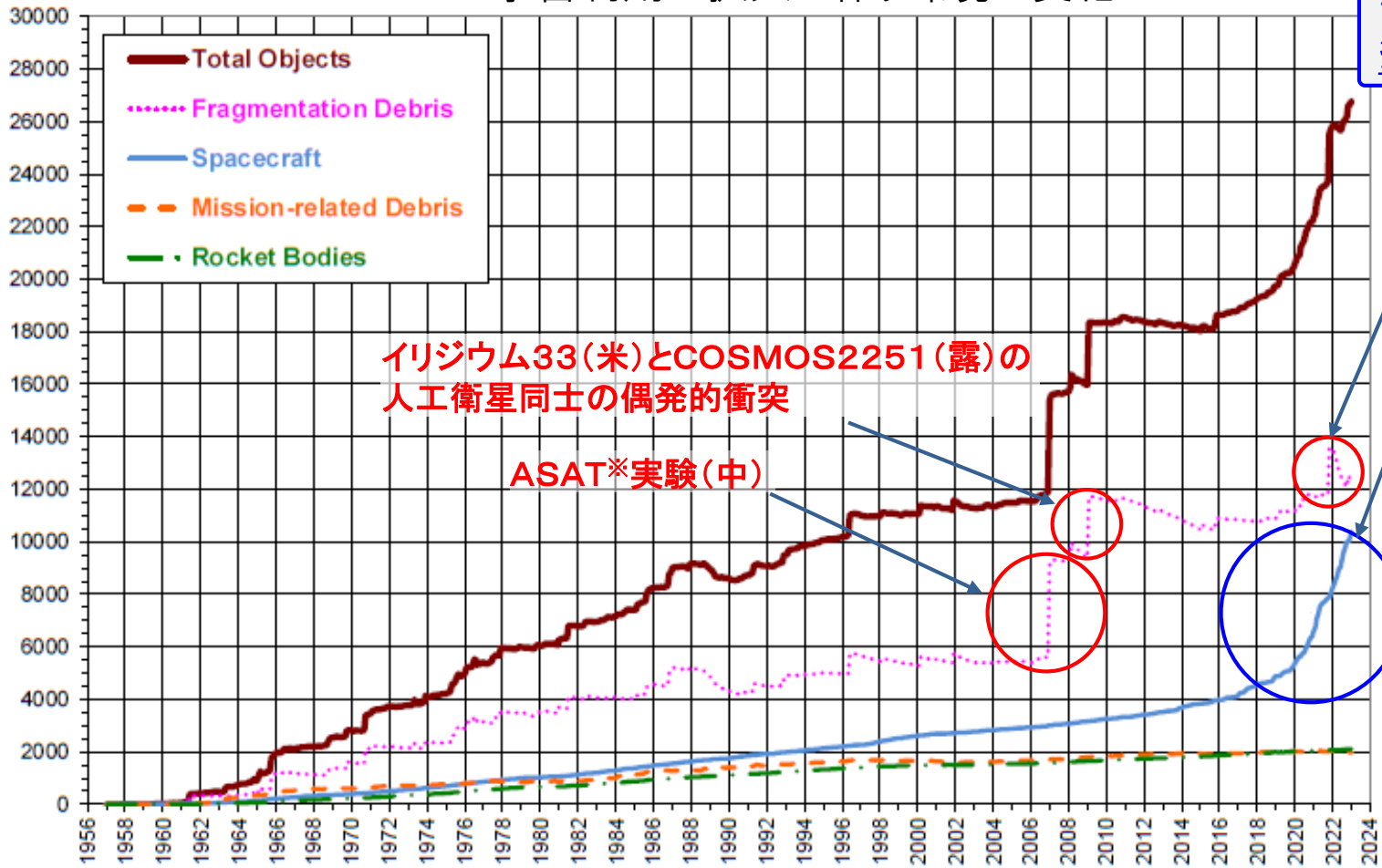
（2024年3月12日撮影）

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（2/11）：宇宙状況①

宇宙利用の拡大に伴う環境の変化
- ➢宇宙空間をめぐる競争の激化
- ➢宇宙空間における脅威とリスクの拡大
- ➢民間イノベーションの進展

宇宙利用の拡大に伴う環境の変化

宇宙物体の合計数
約2．7万個以上



※1　ASAT：Anti-Satellite
（衛星破壊兵器）

※2　多数の衛星を軌道上に配置し、一体的に運用するシステム

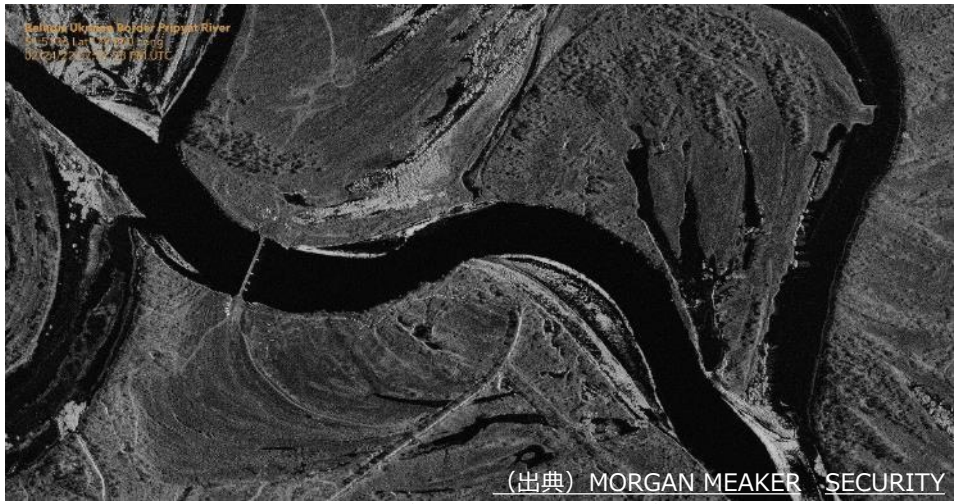
（出典）NASA：Orbital Debris Quarterly News Vulume27,Issue1

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（3/11）：宇宙状況②

➢ウクライナにおける民間の衛星データの利用及び通信衛星コンステレーションを活用した通信

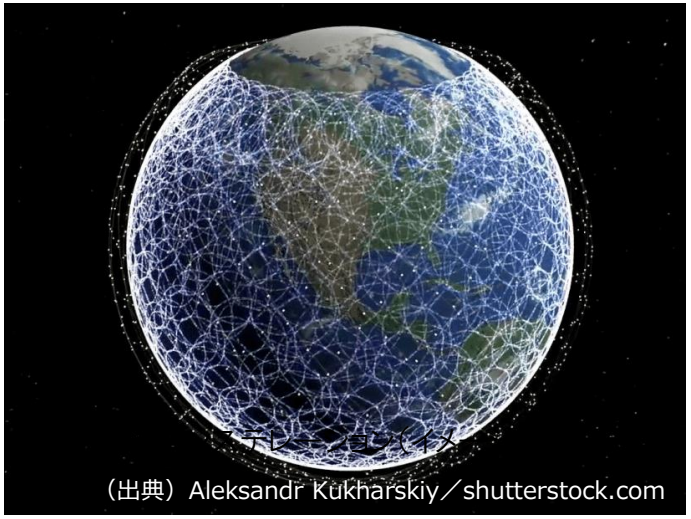
商用画像衛星の活用

光学画像（MAXAR）



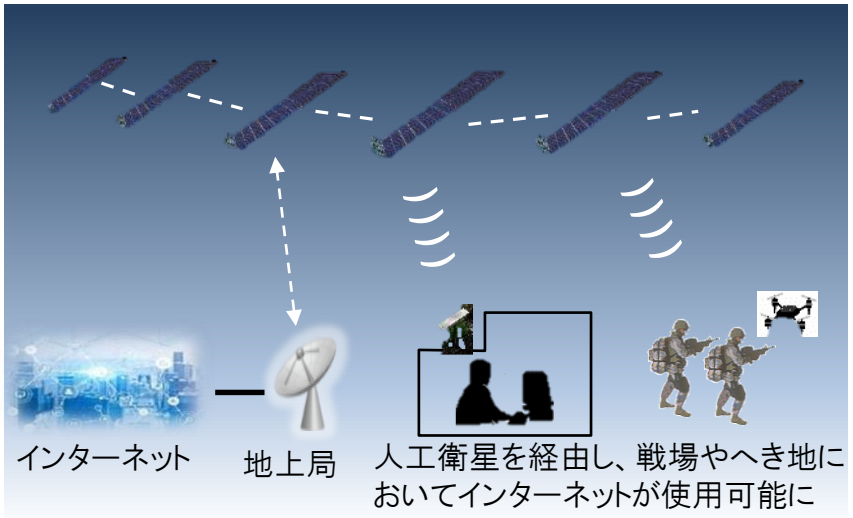
SAR画像（CAPELLA SPACE）

通信衛星コンステレーションの活用（スターリンク）



スターリンク衛星

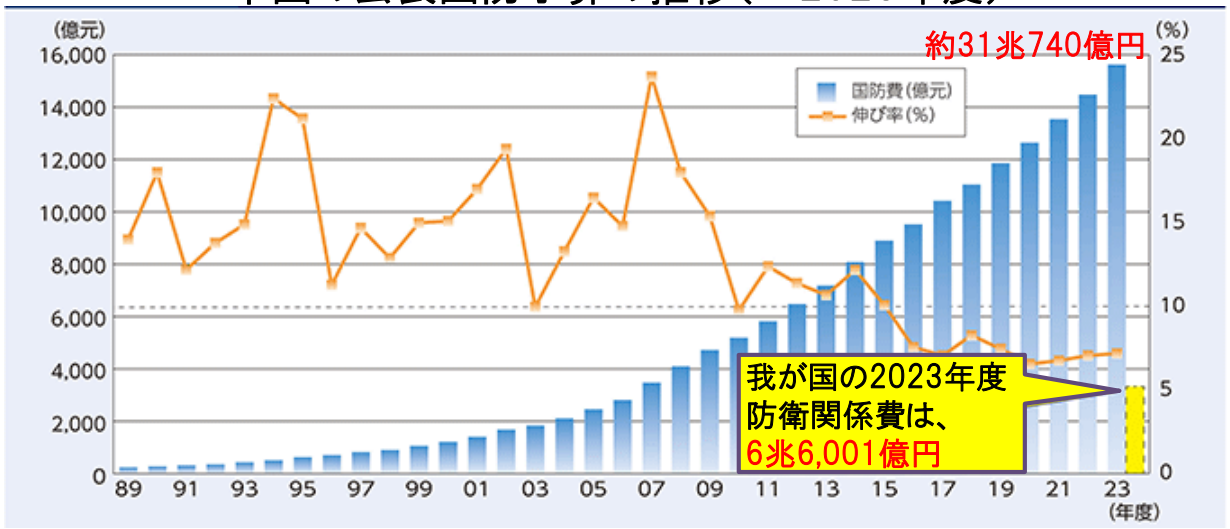
地上アンテナ



2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（4/11）：中国①

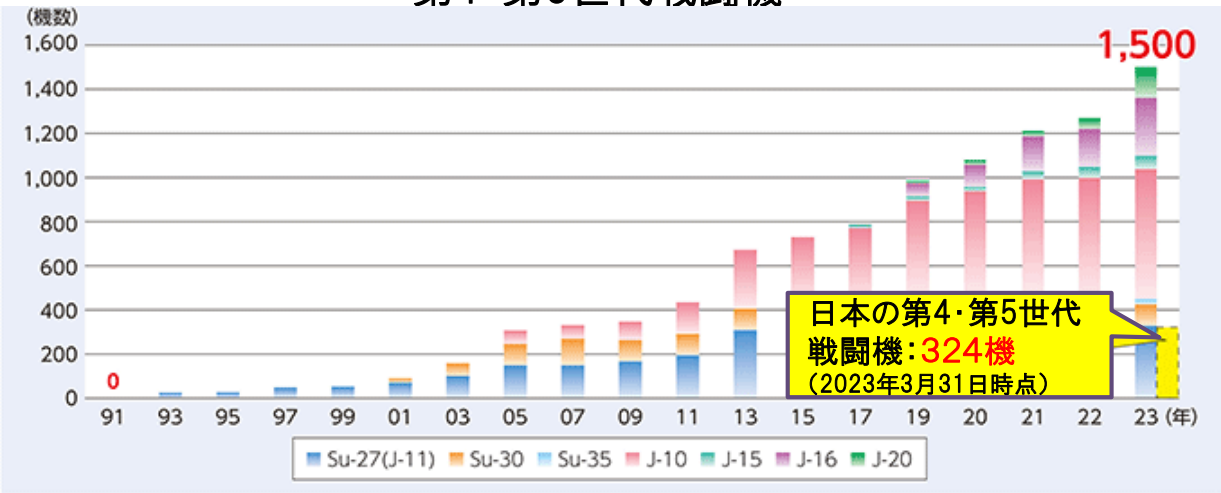
- ➢中国の公表国防費は、速いペースで増加（30年間で約37倍、10年間で約2.2倍）
- ➢公表国防予算増加率が経済成長率を上回る年も少なくなく、中国経済の成長鈍化がどのような影響を及ぼすか注目

中国の公表国防予算の推移（～2023年度）



北京を中心とする弾道ミサイルの射程

第4・第5世代戦闘機



J-16戦闘機とみられる航空機

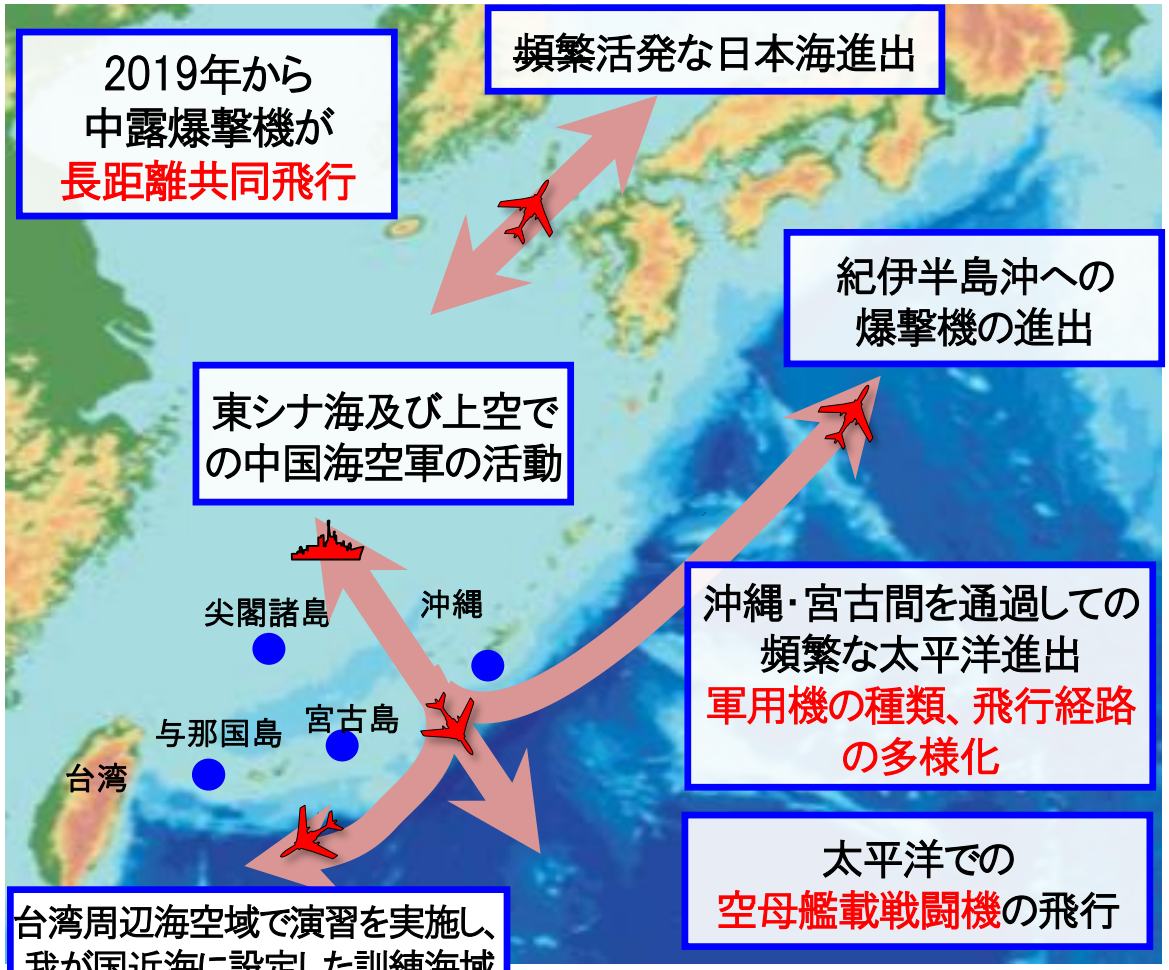
H-6爆撃機

出典:令和5年版防衛白書
防衛省HP

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（5/11）：中国②

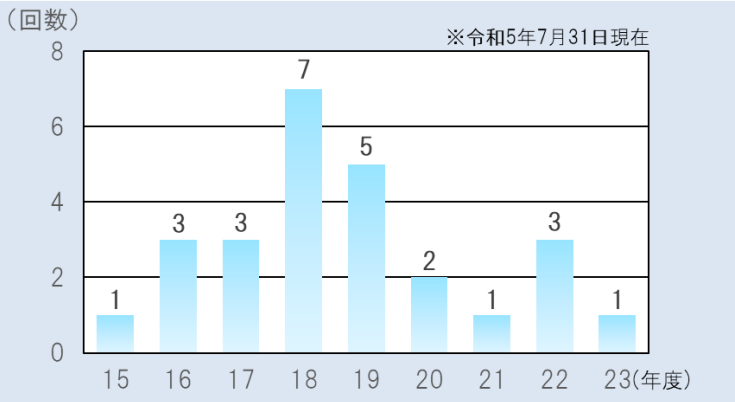
- ➢中国軍は、我が国周辺海空域での活動を拡大・活発化。行動を一方的にエスカレートさせる事案も。
- ➢活動内容は、質的な向上を見せ、実践的な統合作戦遂行能力の向上の動き
- ➢軍事動向等は、**我が国と国際社会の深刻な懸念事項**であり、**これまでにない最大の戦略的な挑戦**

最近の中国軍の主な活動（イメージ）

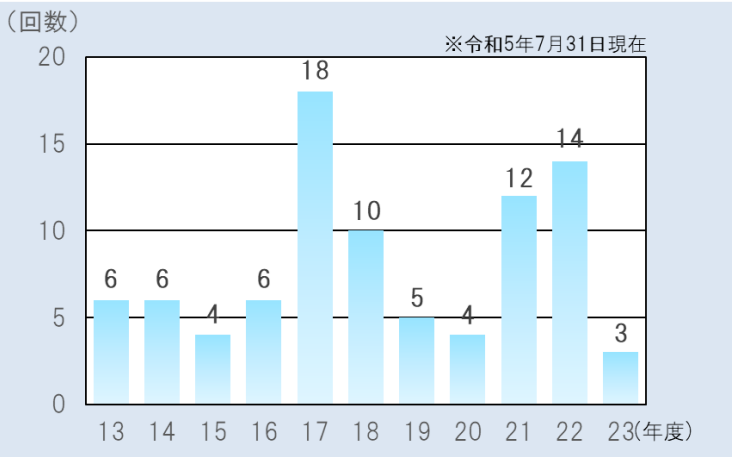


※場所、航跡などはイメージ、推定含む

中国軍機の対馬海峡通過公表回数



中国軍機の沖縄本島・宮古島間の通過公表回数



出典：令和5年版防衛白書、防衛省HPを基に作成

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（6/11）：中国③

- ➢中国は、近年、台湾周辺での軍事活動を活発化
- ➢2022年8月以降、台湾海峡「中間線」への中国軍機の進入機数が大きく増加
- ➢2023年4月、蔡英文総統が、マッカーシー米下院議長と会談したことを受け、台湾周辺の海空域にて大規模な軍事演習を実施
- ➢台湾周辺での一連の活動を通じ、**中国軍が常態的に活動している状況の既成事実化を図るとともに、実践能力の向上を企図**

蔡英文総統とマッカーシー議長（当時）の会談

会談の様子

共同談話発表の様子

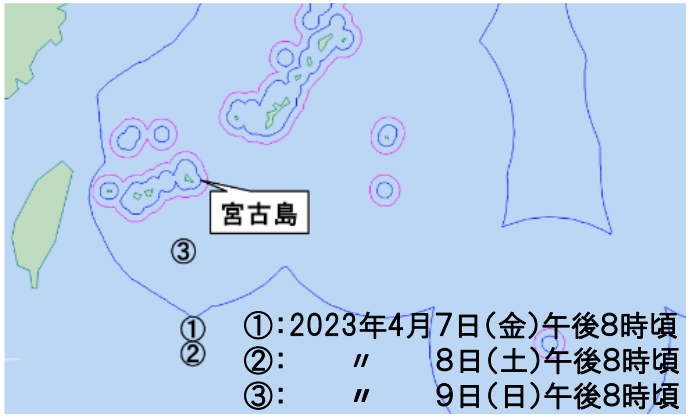
中国の台湾周辺における軍事演習

ジャンカイⅡ級フリゲートとみられる艦艇

J-16戦闘機とみられる航空機

空母「山東」から発艦しているとみられる航空機

空母「山東」等の動向



〇海上自衛隊は、2023年4月7日（金）から9日（日）にかけて、空母「山東」、駆逐艦、フリゲート艦、戦闘支援艦が、上図のとおり太平洋上の海域において航行していることを確認

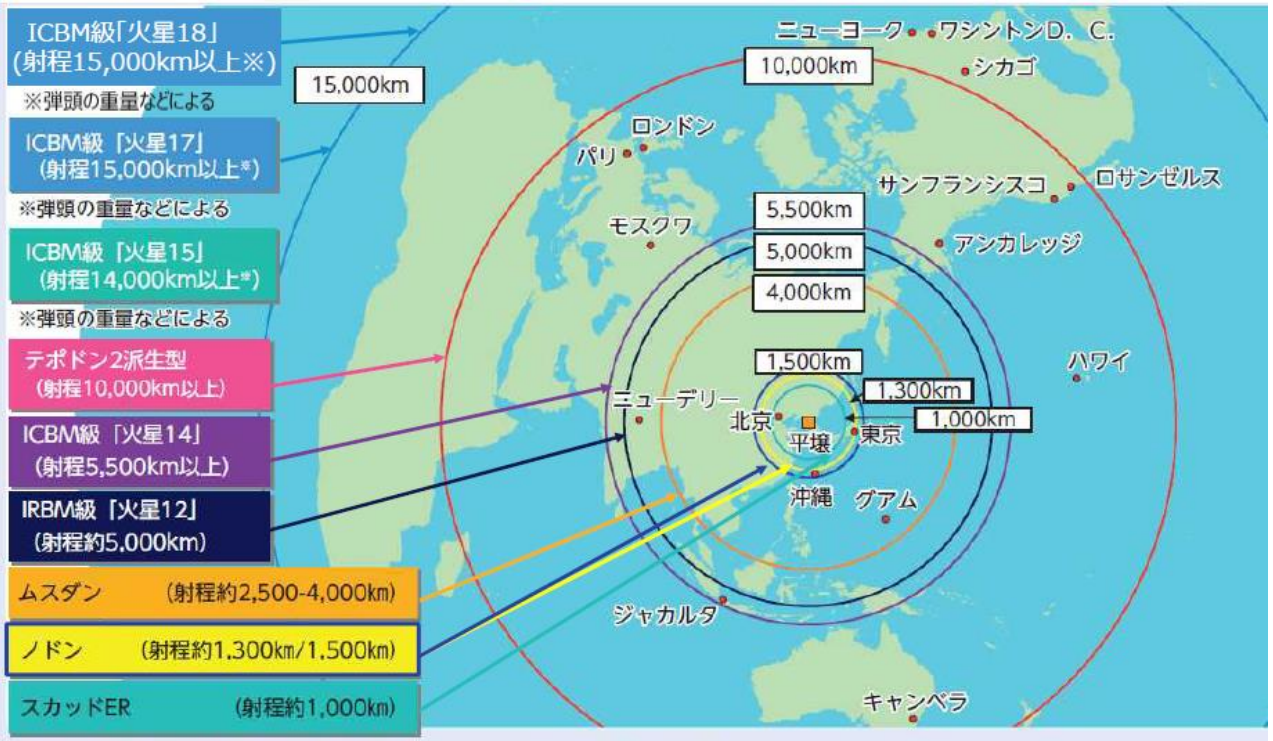
〇当該期間に、空母「山東」の**艦載戦闘機によるもの約80回及び艦載ヘリによるもの約40回、計約120回の発着艦**を確認

出典：防衛省HP

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（7/11）：北朝鮮①

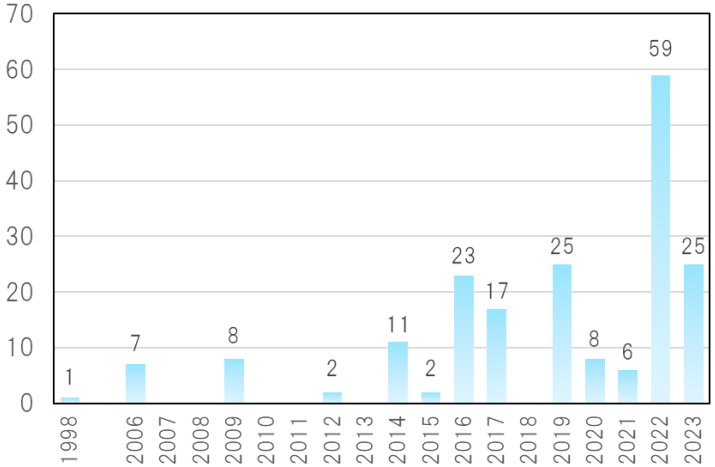
- ➢北朝鮮の究極目標は「体制維持」とみられるが、米韓の現代的な通常戦力や、核を含む米国の脅威に対抗するためには、独自の核抑止力構築が不可欠と認識。このため、北朝鮮は、核兵器とともに、その運搬手段である弾道ミサイルの開発を推進
- ➢低空を変則的な軌道で飛翔する弾道ミサイルを実用化し、様々なプラットフォームから発射することで、兆候把握・探知・迎撃が困難な奇襲的攻撃能力の一層の強化を企図
- ➢北朝鮮の軍事動向は、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

北朝鮮の弾道ミサイルの射程



(注1) 上記の図は、便宜上平壌からの距離を同心円のかたちでイメージとして示したもの
(注2)「　」は北朝鮮の呼称

北朝鮮による核実験・弾道ミサイル等発射の動向



「火星17」型ICBM級弾道ミサイル発射の発表時（2022年11月）に北朝鮮が公表した写真（朝鮮通信）

出典：防衛省HPを基に作成

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（8/11）：北朝鮮②

ミサイル関連技術の向上

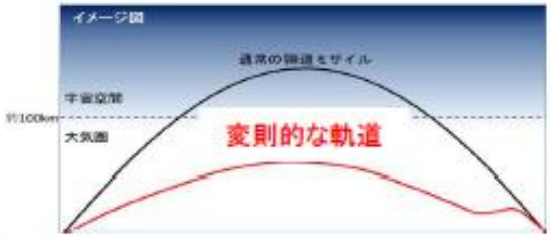
発射の秘匿性・即時性向上

◆ 様々なプラットフォームからの発射
（任意の地点からの発射・隠蔽が可能）
◆ 固体燃料化
（液体に比べ、保管や取扱い等が容易）

⇒発射の秘匿性・即時性を追求

BMD突破能力の向上

◆ 低空を変則的な軌道で飛翔可能な弾道ミサイルの開発
◆ 「極超音速滑空飛行弾頭」の開発



⇒迎撃を困難にし、ミサイル防衛網突破を企図

長射程ミサイルの開発

ICBM級「火星17」※
「火星18」※
（射程15,000km以上）

ICBM級「火星15」※
（射程14,000km以上）

ICBM級「火星14」
（射程5,500km以上）

※弾頭重量等による

◆「火星１５」の射程14,000km以上（平壌から発射）の場合、米国全土が含まれる。

⇒開発を進展させた場合、米国に対する抑止力を確保したと一方的に認識し、軍事的挑発の増加・重大化につながる可能性も

ミサイル運用能力の向上

◆ 複数発の同時発射

◆ 発射間隔が1分未満の発射

◆弾道ミサイルを異なる場所から発射し、特定の目標に命中させることを追求

⇒ミサイル関連技術の向上のみならず、飽和攻撃といった実戦的なミサイル運用能力の向上を企図している可能性

出典：防衛省HP

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（9/11）：ロシア

- ➢プーチン大統領は、「強い国家」や「影響力ある大国」を掲げ、ロシアの復活を追求
- ➢戦略核兵器の近代化に取り組む姿勢を明確化
- ➢我が国周辺でも、新型装備の導入や演習など、活発な活動を継続、中国との戦略的な連携を強化
- ➢ロシアの軍事動向は、**中国との戦略的な連携と相まって安全保障上の強い懸念**

2022年2月、宗谷海峡を通過する
ステレグシチーⅡ級フリゲート「グレチャシミー」

2022年10月、宗谷海峡を西進した
ロシア海軍キロ級潜水艦

松輪島内を走行する
地対艦ミサイル・システム「バスチオン」

偵察用小型無人機
「オルラン-10」

【演習・訓練】
〇大規模演習「ヴォストーク2022」（22年9月）（国防省発表）
・兵員5万人以上が参加したほか、中国海軍と北海道西方の日本海で共同射撃訓練を実施

極東ロシア軍の新型装備品（例）

ボレイ級戦略原子力潜水艦

ステレグシチーⅡ級
フリゲート

地対空ミサイル
「S-400」

Su-35S戦闘機

出典：防衛省HP、令和5年版防衛白書

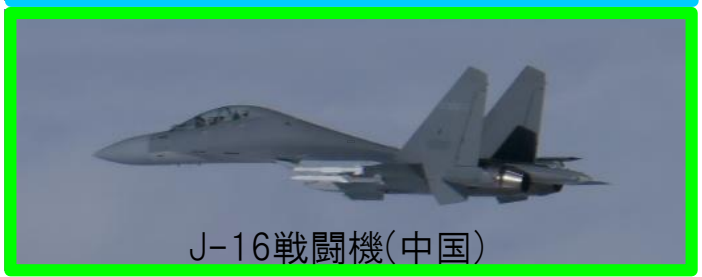
2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（10/11）：中露共同飛行

➢ロシア機に対する自衛隊機の緊急発進回数は、過去5年間で年平均約223回（2019～2023年）
➢2019年以降、中国との爆撃機による共同飛行を日本海、東シナ海、太平洋で実施

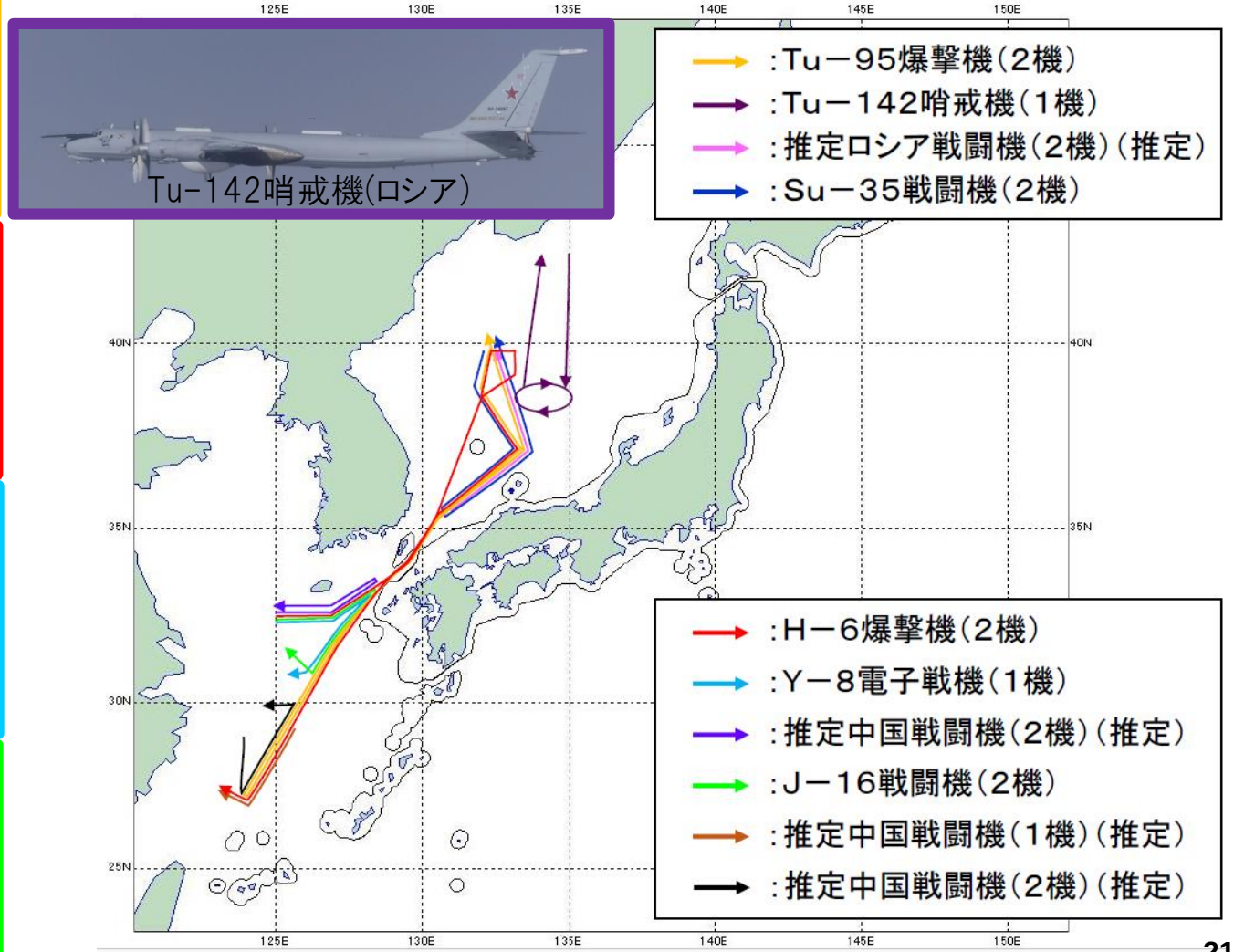
Tu-95爆撃機、Su-35戦闘機(ロシア)

H-6爆撃機(中国)

Y-8電子戦機(中国)


J-16戦闘機(中国)

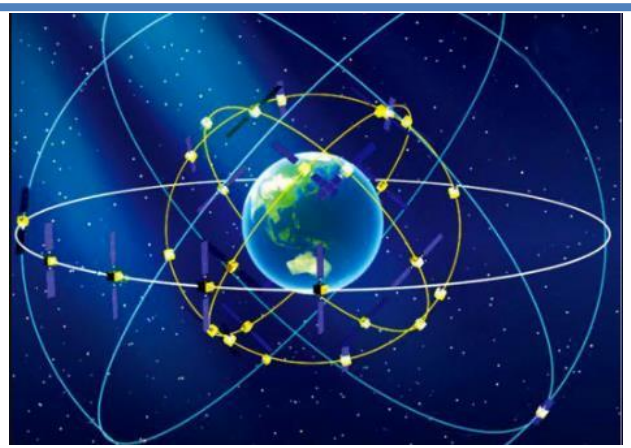
中国軍機及びロシア軍機の動向
（2023年12月14日）



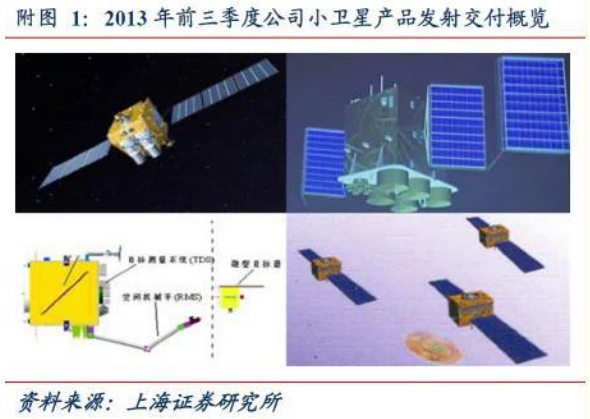
出典：統合幕僚監部HP

2　我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況（11/11）：中国/北朝鮮

➢中国は近年、衛星打ち上げの増加が顕著であり、2012年からの12年間で約6倍に急増
➢北朝鮮は2023年5、8、11月に衛星打ち上げを目的とした発射を強行、11月の発射では、北朝鮮が発射した物体が地球を周回していることを確認

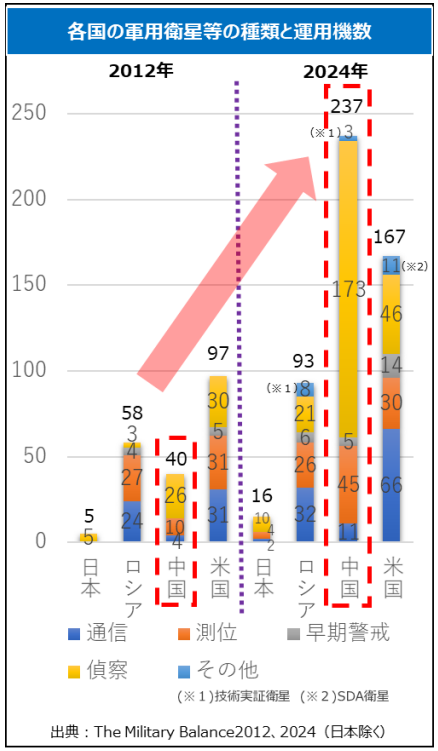


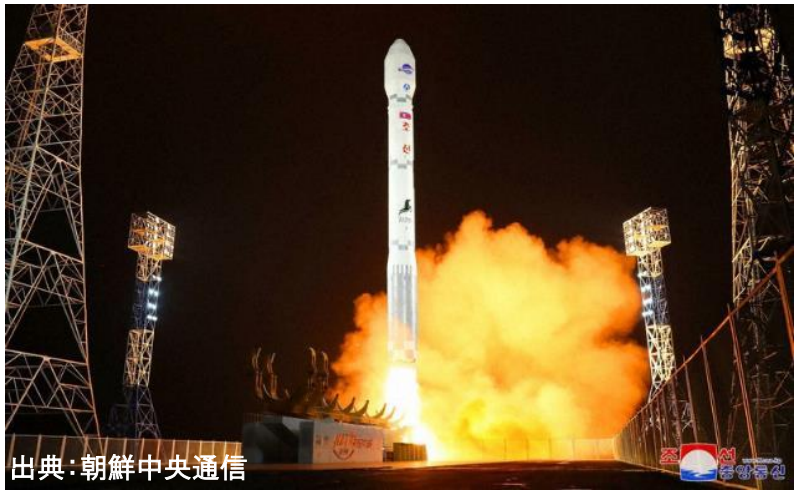
中国のGNSS※　北斗 Bei-Dou
※Global Navigation Satellite System



出典：GLOBAL COUNTER SPACE

中国のロボットアームを搭載した衛星の図





北朝鮮が公開した発射の画像

北朝鮮が公開した「国家航空宇宙技術総局平壌総合管制所」

Ⅱ　航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等

1　航空自衛隊の任務と行動

2　航空防衛力の特徴

3　航空自衛隊の編成

4　同盟国･同志国との連携

1　航空自衛隊の任務と行動(1/2)

自衛隊法　第3条【自衛隊の任務】抜粋

○我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛
○必要に応じ、公共の秩序維持等
○航空自衛隊は主として空において行動

自衛隊法　第6章【自衛隊の行動】抜粋

○防衛出動(第76条)
○国民保護等派遣(第77条の4)
○治安出動(第78条、第81条)
○自衛隊の施設等の警護出動(第81条の2)
○海上における警備行動(第82条)
○海賊対処行動(第82条の2)
○弾道ミサイル等に対する破壊措置(第82条の3)
○災害派遣 (第83条)、地震防災派遣(第83条の2)
○原子力災害派遣(第83条の3)
○領空侵犯に対する措置(第84条)
○在外邦人等の保護措置、輸送(第84条の3、第84条の4)
○国際緊急援助活動、国際平和協力業務等(第84条の5)

自衛隊法　第8章【雑則】抜粋

○運動競技会に対する協力(第100条の3)
○国賓等の輸送(第100条の5)

対領空侵犯措置

弾道ミサイル等に対する破壊措置

災害派遣

在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動

1　航空自衛隊の任務と行動(2/2)

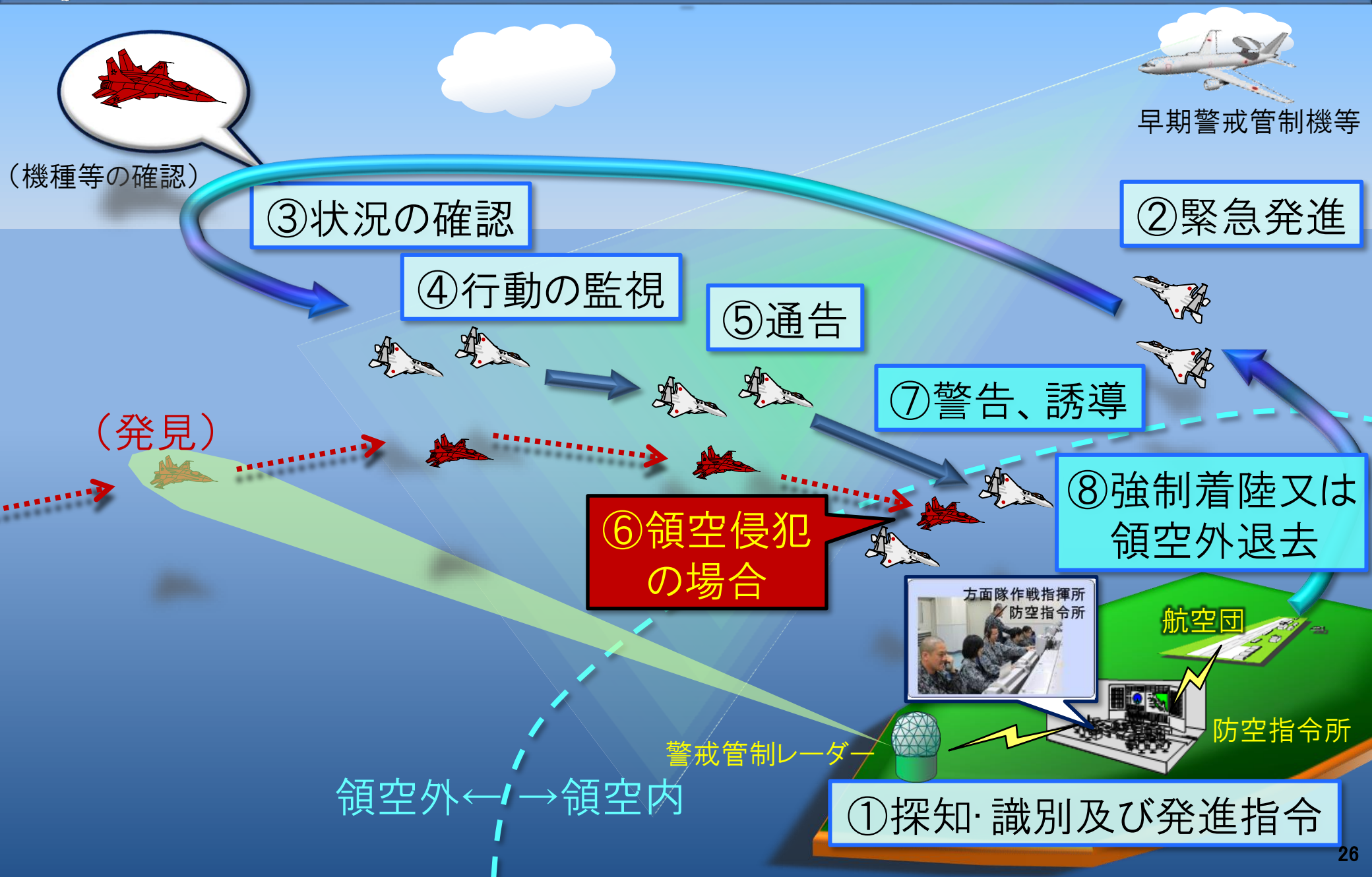
航空自衛隊は、平時から有事まで、空と宇宙を守る唯一の存在

	陸	海	空
【有事】防衛力	陸上自衛隊 自衛官:約15.1万人	海上自衛隊 自衛官:約4.5万人 主要艦艇:約140隻	航空自衛隊 自衛官:約4.7万人 主要航空機:約430機 うち戦闘機:約320機
【平時】警察力	警察 警察官等:約26万人	海上保安庁 人員:約1.4万人 船舶:450隻	⇩ 警察機関では対応が困難との事情から、その実効性等も踏まえ、空自が領空侵犯機に対処

➢航空自衛隊は、平時・有事問わず航空・宇宙領域における日本代表

出典:令和5年版防衛白書、陸上総隊HP、海自HP、海保HP、警察白書、警視庁HP)

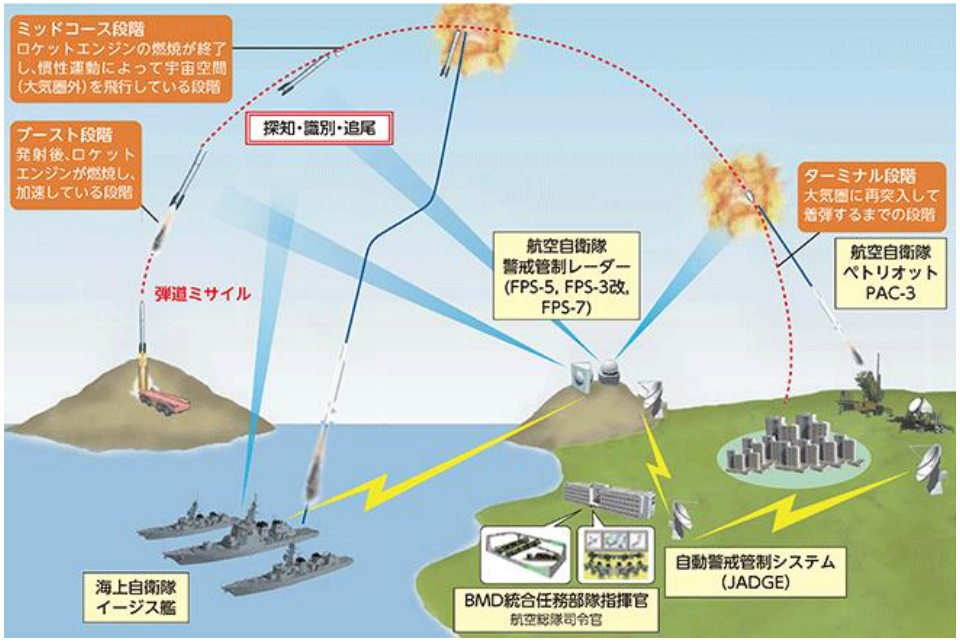
領空侵犯に対する措置（隊法84条）



弾道ミサイル等に対する破壊措置（隊法82条の3）

➢航空総隊司令官を指揮官とするBMD統合任務部隊を組織し、自動警戒管制システムを通じた一元的な指揮のもと、効果的に対処するための各種態勢を保持

BMD 整備構想・運用構想

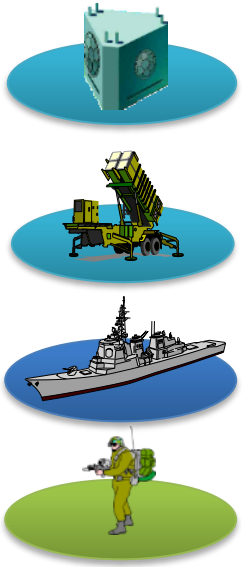


海自イージス艦

ペトリオット　PAC-3

JTF-BMD の編成（例）

- 防衛大臣
- 統合幕僚長
- BMD統合任務部隊指揮官（JTF－BMD）航空総隊司令官
  - 航空警戒管制部隊
  - 地対空誘導弾部隊
  - 海上自衛隊イージス艦
  - 陸上自衛隊部隊

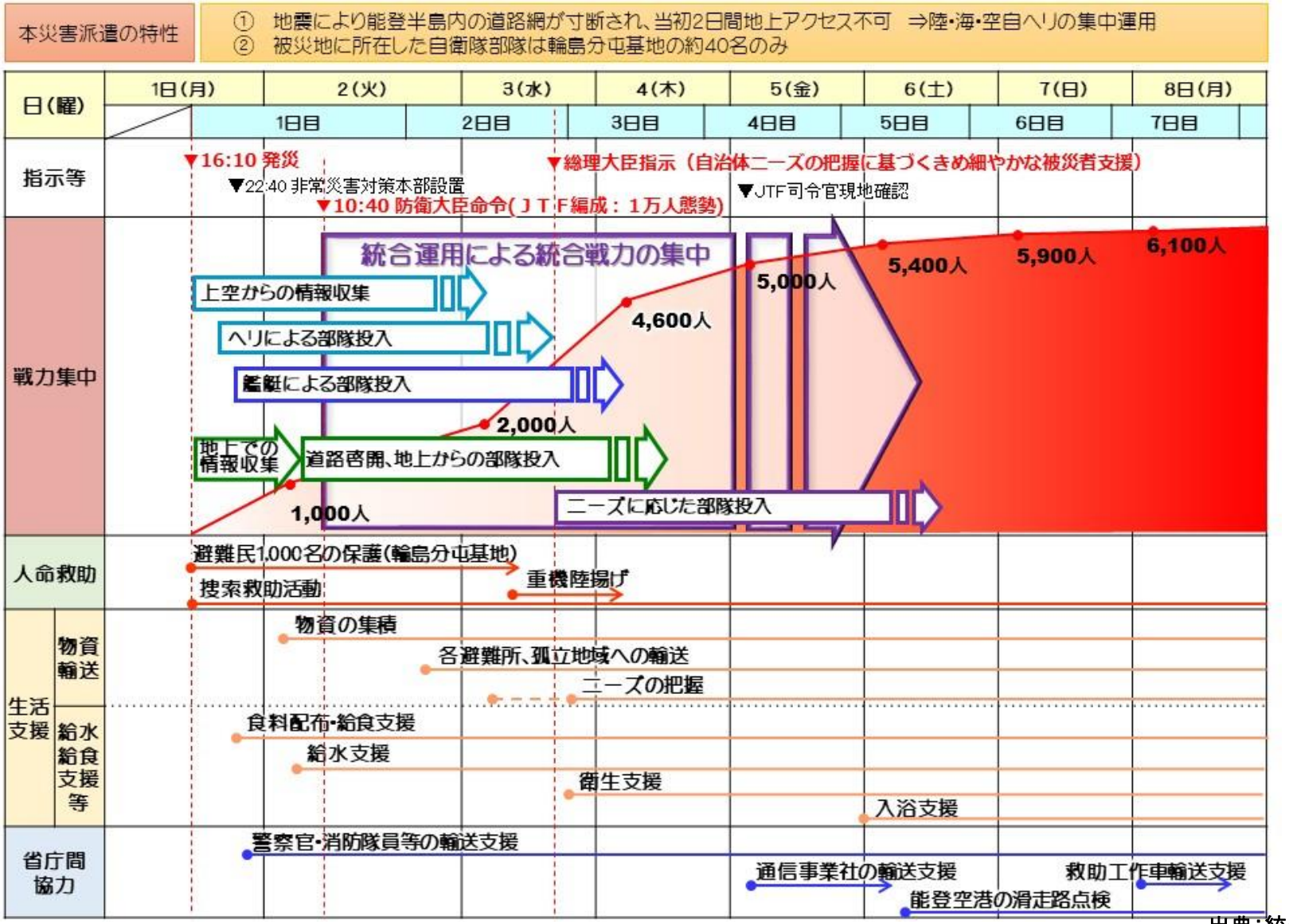


JTF（Joint Task Force）：統合任務部隊
BMD（Ballistic Missile Defense）：弾道ミサイル防衛

災害派遣（第83条）（1/4）

令和6年能登半島地震に係る災害派遣（2024年1月～）

地域特性に応じた統合運用能力の集中



出典：統合幕僚監部HP

災害派遣（第83条）（2/4）

令和6年能登半島地震に係る災害派遣（2023年度）

空自輪島分屯基地における避難住民の受け入れ
（1月1日）

輪島市における捜索救助活動
（1月4日）

七尾市立中島小学校における
給食支援活動（1月4日）

UH-60Jによる孤立地域からの住民避難輸送
（1月6日）

災害派遣（第83条）（3/4）

令和6年能登半島地震に係る災害派遣（2023年度）

横浜市消防局救助工作車のC-2輸送機による輸送
（1月8日）

七尾港での海上保安庁巡視船からの受水
（1月10日）

輪島市における空自医官による巡回診療
（1月12日）

警察・消防・自衛隊の共同捜索
（1月12日）

災害派遣(第83条)(4/4)

急患空輸(2023年度)

活動内容	活動規模(空自) ※令和6年1月現在	
患者輸送	航空機(UH-60J、U-125A、C-2、C-130H)	延べ　28回

佐賀県唐津市における大雨に関する災害派遣(2023年7月11日～)

活動内容	活動規模(空自)
人員捜索犬による行方不明者の捜索	人員捜索犬　3頭 活動人員　14名

在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等（第84条の4等）（1/2）

- ➢30年以上にわたり、航空輸送任務を中心に数々の国際緊急援助活動、在外邦人等の輸送、国際平和協力活動等を実施
- ➢ジブチ共和国まで海賊対処行動に係る所要の物資等の航空輸送を実施
- ➢2023年4月、スーダン共和国における情勢悪化に際し、C-2×1機によりスーダン共和国からジブチ共和国まで在外邦人等の輸送を実施
- ➢2023年10月・11月、イスラエル・パレスチナにおける情勢悪化に際し、KC-767×1機によりイスラエルから本邦まで在外邦人等の輸送を実施、2024年3月現在も本邦において待機態勢を継続中

在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等（第84条の4等）（2/2）

在スーダン共和国邦人等の輸送（2023年4月）

➢C-130輸送機、C-2輸送機、KC-767空中給油・輸送機を派遣し、在外邦人とその家族計45名をスーダン共和国からジブチ共和国まで輸送

スーダンに出発するC-130H輸送機（小牧基地）

スーダンからジブチへ向かう空自C-2輸送機の機内の様子

在イスラエル国邦人等の輸送（2023年10月～）

➢C-2輸送機、KC-767空中給油・輸送機を派遣し、在外邦人等計129名をイスラエル国から本邦まで輸送

羽田空港での降機の様子

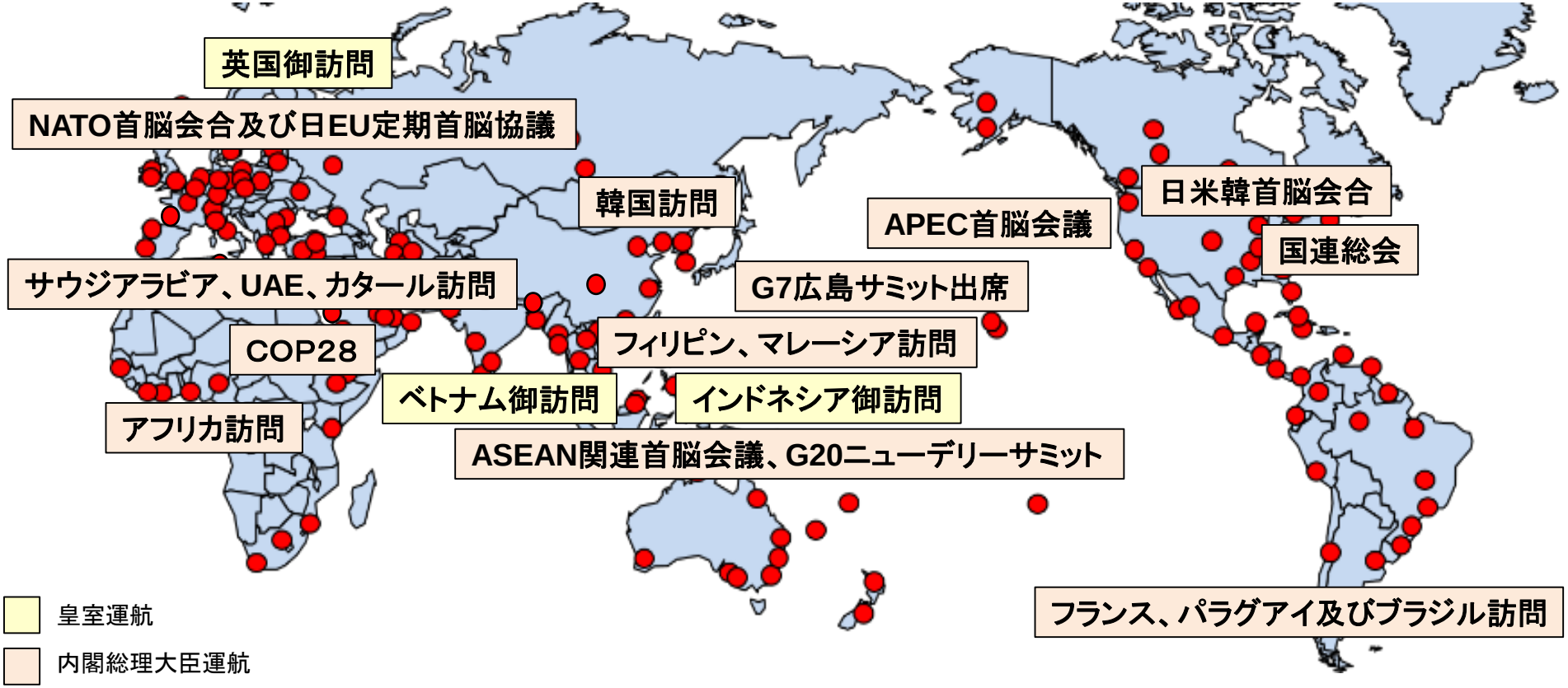
機内での見送りの様子

国賓等の輸送（第100条の5）

- ➢1993年以降、特別輸送機による国賓等の輸送を実施
- ➢任務運航は、通算で395回　注：2024年5月15日現在
  （B-747：349回、B-777：46回）
- ➢101カ国（281都市）を訪問

機内の様子

国賓等輸送（内閣総理大臣）



2　航空防衛力の特徴(1/2)

航空防衛力の意義

航空機、レーダー、ミサイル等を主体とした、国家が保有する航空に関する防衛力

戦闘機部隊

航空警戒管制部隊

地対空誘導弾部隊

2　航空防衛力の特徴(2/2)

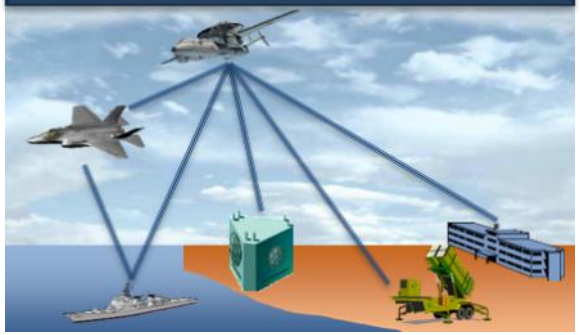
高い即応性・機動性

優れた監視能力

天象・気象の影響

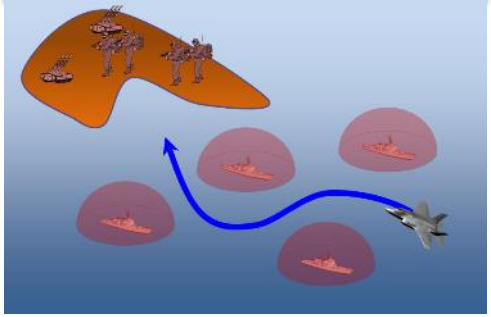
高い柔軟性・多様性

優れた指揮･統制･通信能力



地上では脆弱

高い突破力・生存性



精密な対処能力

防衛力造成に長期間

装備品等取得

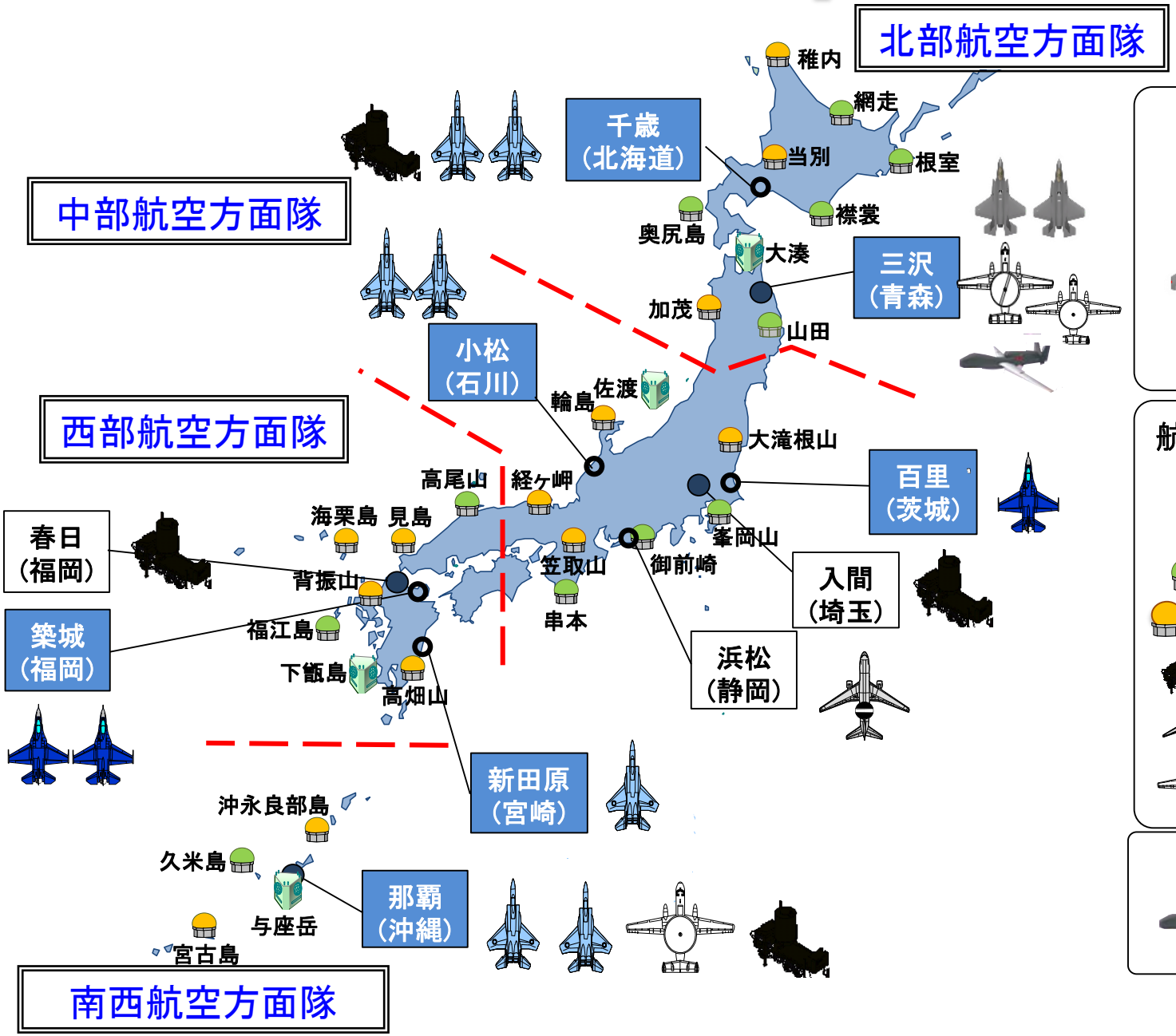
人材育成

3 航空自衛隊の編成

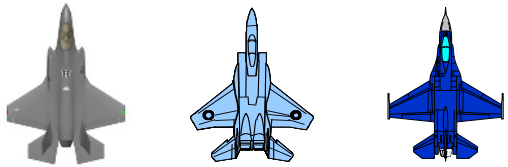
航空自衛隊定員：約50,000名（うち事務官等約2,900名）

注：2023年度末定員、四捨五入により符合しない場合あり。

3　航空自衛隊の編成（航空総隊 1/3）



戦闘機部隊：12個飛行隊
戦闘機数：約260機



F-35　F-15　F-2

航空警戒管制部隊：28個ﾚｰﾀﾞｰｻｲﾄ
1個警戒航空団（3個飛行隊）

- ：SOC/DC
- ：警戒管制レーダー
- ：警戒管制レーダー（BMD対応）
- ：移動警戒隊（TPS-102）
- ：AWACS
- ：E-2C
- ：E-2D

偵察航空部隊：1個飛行隊

：RQ-4B

3　航空自衛隊の編成（航空総隊 2/3）

迎撃ミサイル発射の状況

北部航空方面隊

北部高射群（三沢）
千歳×2個高射隊
長沼×2個高射隊
八雲×2個高射隊
車力×2個高射隊

中部航空方面隊

中部高射群（入間）
習志野　×1個高射隊
武山　　×1個高射隊
霞ケ浦　×1個高射隊
入間　　×1個高射隊
岐阜　　×2個高射隊
饗庭野×1個高射隊
白山　　×1個高射隊

西部航空方面隊

西部高射群（春日）
芦屋　　×2個高射隊
築城　　×1個高射隊
高良台×1個高射隊

南西高射群（那覇）
那覇×1個高射隊
知念×2個高射隊
恩納×1個高射隊

南西航空方面隊

器材展開の状況

3　航空自衛隊の編成（航空総隊 3/3）

航空救難部隊：10個救難隊

ヘリコプター空輸部隊：4個飛行隊

3　航空自衛隊の編成（航空支援集団 1/3）

航空支援集団司令官

航空支援集団司令部（府中）

輸送航空隊（小牧他）

・空中輸送業務等
・陸自空挺部隊協力
・操縦者等及び整備員に対する教育業務

航空保安管制群（府中他）

・航空交通管制業務
・飛行管理業務
・飛行情報業務

航空気象群（府中他）

・気象予報業務
・気象観測業務
・気象情報業務

飛行点検隊（入間）

・航空保安施設及び航空管制施設の飛行点検業務

特別航空輸送隊（千歳）

・特別輸送機(B-777)をもってする主として国賓等の輸送業務

航空機動衛生隊（小牧）

・重症患者に対する機上医療等
・機上医療等に必要な調査研究
・救急に関する識能の部隊等に対する普及教育

3 航空自衛隊の編成(航空支援集団 2/3)

B-777

C-2

KC-46A

KC-767

C-130H

C-1

U-125

U-680A

凡例

- 航空輸送部隊
空中給油･輸送部隊
- 飛行点検部隊
- 特別航空輸送部隊

航空輸送部隊	：3個飛行隊
空中給油･輸送部隊	：2個飛行隊
特別航空輸送部隊	：1個飛行隊
飛行点検部隊	：1個飛行隊

(2023年3月末時点)

3　航空自衛隊の編成（航空支援集団 3/3 ）

航空支援集団（司令部：府中）

- 第1輸送航空隊（小牧）
- 第2輸送航空隊（入間）
- 第3輸送航空隊（美保）
- 航空保安管制群（府中）
- 航空気象群（府中）
- 飛行点検隊（入間）
- 特別航空輸送隊（千歳）
- 航空機動衛生隊（小牧）

管制隊（17個管制隊）

市ケ谷（気象隊のみ）

府中（気象隊のみ）

横田（気象隊のみ）

航空機動衛生隊

気象隊（20個気象隊）

3　航空自衛隊の編成（航空教育集団）

航空教育集団司令官

航空教育集団司令部（浜松）

航空団（浜松、松島）

・学生に対する航空機操縦者としての教育訓練（基本、戦闘機操縦課程）

飛行教育団（静浜、防府北、芦屋）

・学生に対する航空機操縦者としての教育訓練（初級、基本操縦課程）

航空教育隊（防府南、熊谷）

・自衛官候補生や各級空曹、空曹候補者に対する基礎的または一般的知識技能の教育訓練

飛行教育航空隊（新田原）

・学生に対する戦闘機操縦者としての教育訓練（戦闘機操縦課程）

教材整備隊（浜松）

・部隊等における教育訓練等に必要な各種教材類の製作、修理等

幹部候補生学校（奈良）

・初級幹部としての職務を遂行するに必要な知識技能の教育訓練

術科学校（浜松、芦屋、熊谷、小牧）

・各特技毎に関連装備品の運用等に必要な知識技能の教育訓練

注：破線は、隷属関係はないが校務の掌理については航空教育集団司令官の指揮監督を受けることを示す。

3　航空自衛隊の編成（航空開発実験集団）

航空開発実験集団司令官

航空開発実験集団司令部（府中）

飛行開発実験団（岐阜）

・航空装備品等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
・防衛装備庁に対する協力
・防衛装備庁の依頼に基づく領収のための飛行
・試験飛行操縦士に対する教育訓練

電子開発実験群（府中）

・地上通信電子器材等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
・防衛装備庁に対する協力
・電波環境及び通信の品質に関する技術調査

航空医学実験隊（入間）

・航空医学及び心理学上の各種調査研究並びに実用試験
・医学適性審査及び航空生理訓練
・他自衛隊、防衛装備庁に対する協力

3　航空自衛隊の編成（補給本部等）

補給本部長

補給本部（十条）

・各補給処の業務に係る企画、調整及び補給処の管理

第2補給処（岐阜）

・航空機の保管、整備
・航空機の機体用部品、エンジンの調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究

第3補給処（入間）

・通信電子器材、写真器材、気象器材の調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究

第4補給処（入間）

・火器、弾薬、標的、曳航器材の調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究
・需品、車両、航空機の支援器材、化学器材、施設器材の調達、保管、補給、整備及びこれらに関する調査研究

注：破線は、補給本部長の指揮監督を受けることを示す。

3　航空自衛隊の編成（宇宙作戦群）

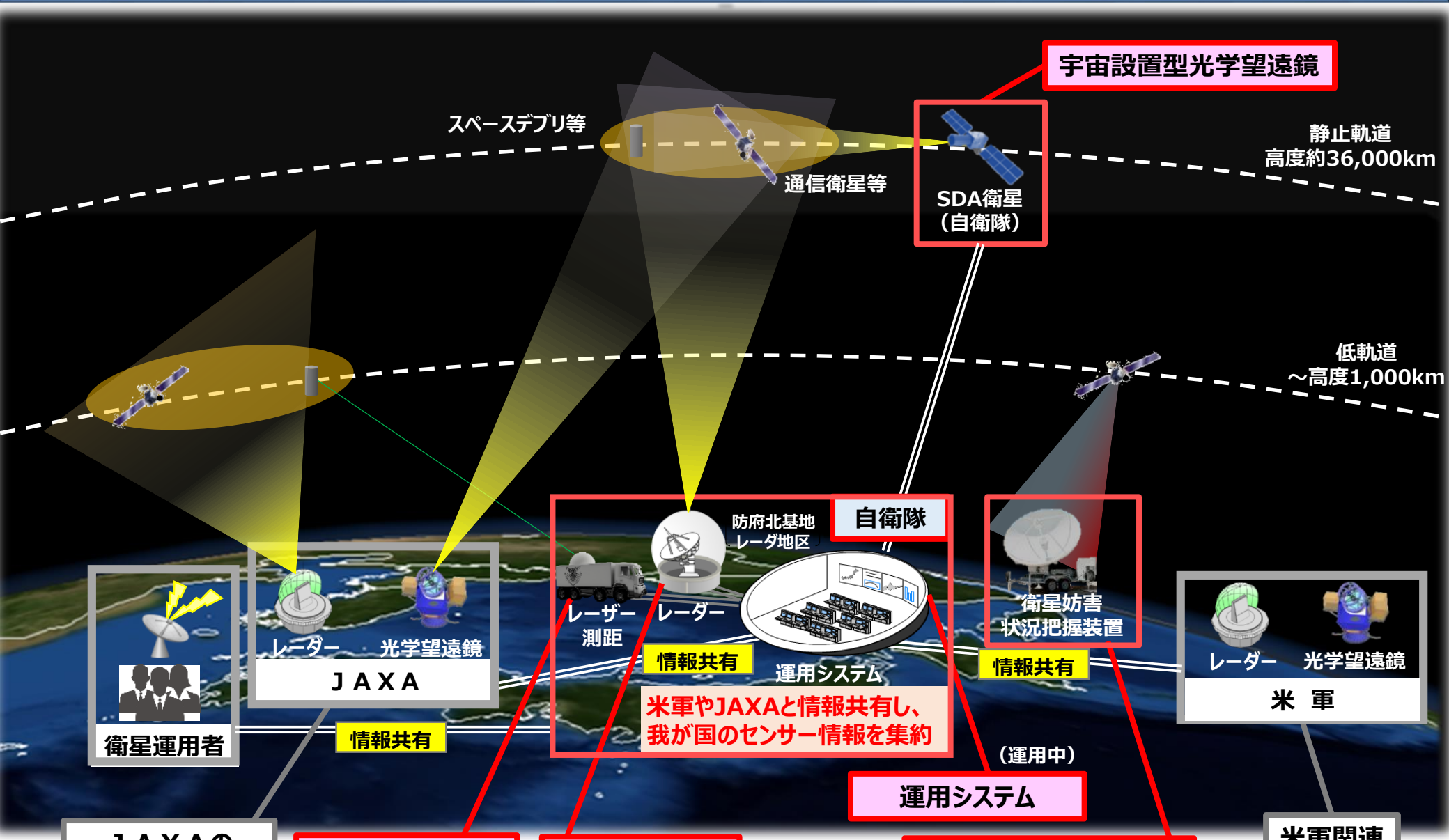
【防衛力整備計画（令和4年12月16日）】
■将官を指揮官とする宇宙領域専門部隊を新編
■航空自衛隊を航空宇宙自衛隊へ
■民生技術の取り込みを図りながら、早期装備化を実現

- 2024（令和6）年3月
  宇宙作戦群の改編
- 2023（令和5）年3月
  宇宙作戦群の改編
- 2022（令和4）年3月
  宇宙作戦群の新編
- 2021（令和3）年3月
  空幕防衛部事業計画2課
  宇宙領域班の新編
- 2020（令和2）年3月
  宇宙作戦隊の新編

令和5年度末で約200名へ

【平成31年度以降に係る防衛計画の大綱】
航空自衛隊において宇宙領域専門部隊を保持

宇宙領域における空自の態勢整備



4　同盟国・同志国等との連携(1/2)

航空自衛隊の防衛協力・交流の方針

● 自由で開かれたインド太平洋（FOIP）

・ 自由で開かれたインド太平洋を介してアジアとアフリカの「連結性」を向上させ、地域全体の安定と繁栄を促進することを目指すビジョン

● 戦略三文書

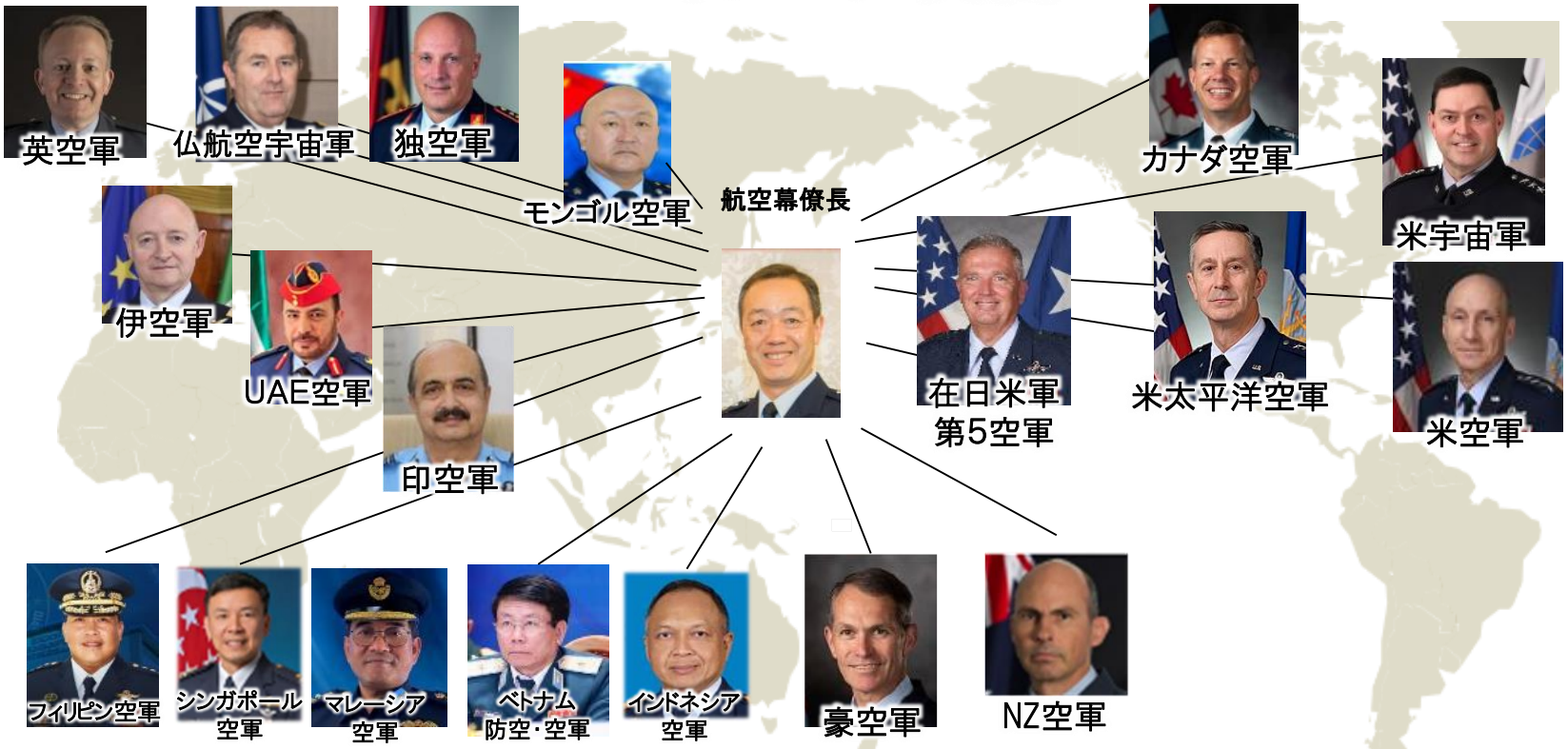
- 日米同盟の強化
- 自由で開かれた国際秩序の維持・発展と同盟国・同志国等との連携の強化

防衛協力・交流における空自の取組み

「自由で開かれたインド太平洋」の実現に寄与するため、二国間・多国間の枠組みを活用し、ハイレベル交流、実務者交流、共同訓練等の防衛協力・交流を積極的に推進

4　同盟国・同志国等との連携(2/2)

ハイレベル交流



部隊間交流・実務者交流

日豪幕僚協議

日英戦闘機部隊間交流

共同訓練

モビリティ・ガーディアン

日米韓共同訓練

①日米同盟強化のための取組(1/2)

- ➢日米安保体制を中核とする日米同盟は、我が国のみならず、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定及び繁栄に大きな役割
- ➢日米同盟の抑止力・対処力を強化するべく、平素から日米の相互理解と意思疎通を深めるとともに、相互運用性等を向上させるため、各職種及び各レベルでの協議、共同訓練等を実施

戦略レベル

ハイレベル協議を通じた戦略の一致

日米防衛相会談

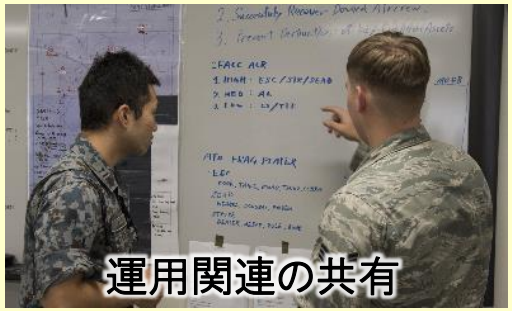
米統合参謀本部議長との会談

米宇宙軍作戦部長との懇談

作戦レベル

各種施策による作戦面での協力の深化

日米共同情報分析組織
(Bilateral Information Analysis Cell)


運用関連の共有

仏多国間宇宙演習(AsterX)

戦術レベル

共同訓練を通じた戦術面での相互運用性の向上

レッド・フラッグ・アラスカ

コープ・ノース

グローバル・センチネル演習
(SSA多国間机上演習)

出典:https://www.dvidshub.net/image/8243329/global-sentinel-2024

①日米同盟強化のための取組(2/2)

2023.9 米宇宙軍作戦部長　訪日

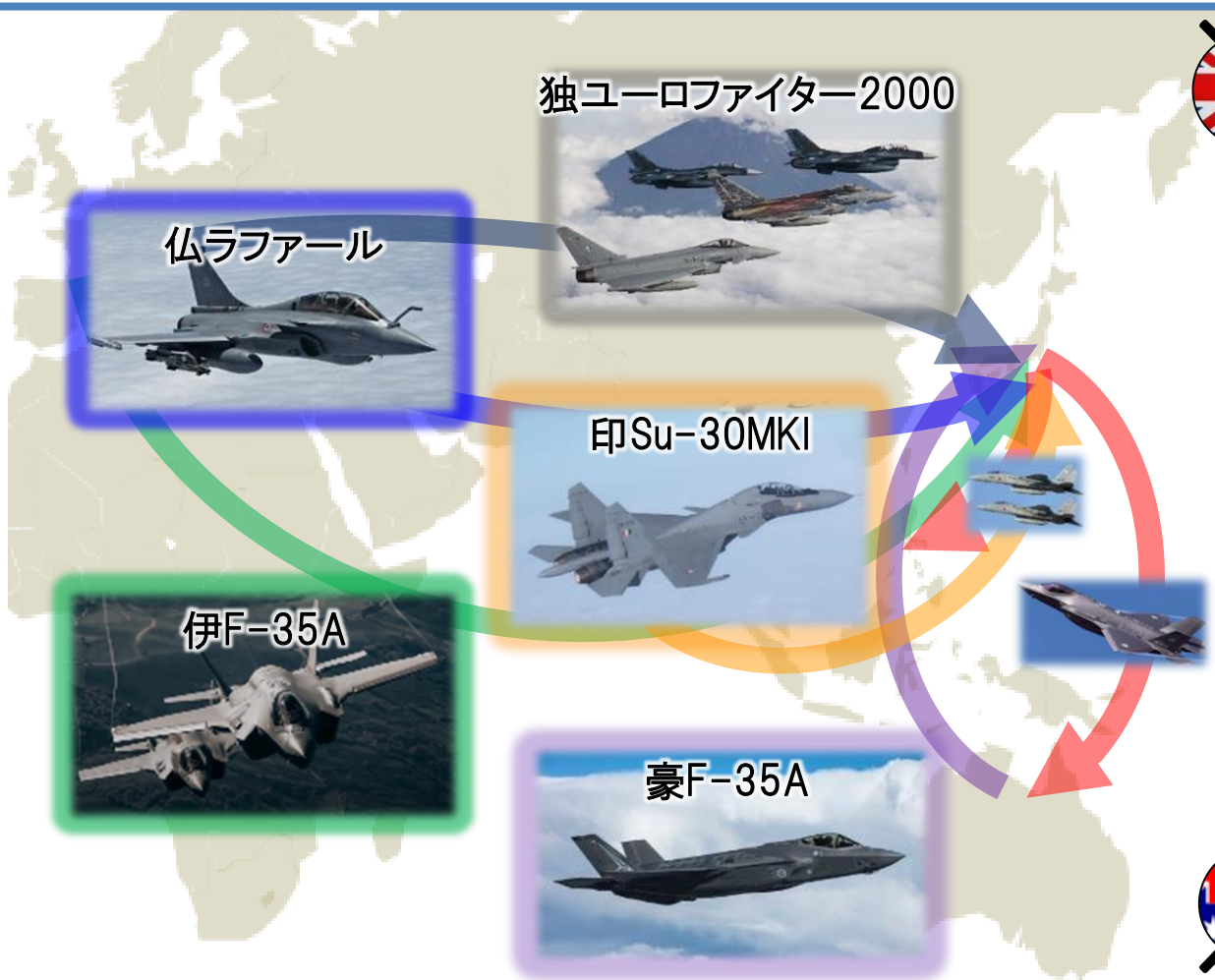
2023.8 第5空軍司令官等来省

2023.8 シルバー・フラッグ(アンダーセン空軍基地)

2023.7 ノーザン・エッジ(硫黄島航空基地)

②同志国等との共同訓練(1/6)

- ➢政府、省による「自由で開かれたインド太平洋」に係る活動への寄与の観点から、航空防衛力を活用しつつ**インド太平洋国家及び同地域への関与を強化している国との連携を強化**
- ➢日英共同訓練(2016年)を皮切りに、部隊の戦術技量の向上及び相互理解の促進を図るため、欧州各国との共同訓練等を実施
- ➢2023年8月、**日豪円滑化協定を初適用**し、空自F-35Aの豪州展開を実施



②同志国等との共同訓練(2/6)

モビリティ・ガーディアン23(2023年7月)@小牧基地、米国スコット空軍基地等

戦術空輸訓練

即応機動訓練

指揮所活動

航空医療搬送訓練

- 米空軍が実施する多国間共同訓練
- 戦術空輸訓練、即応機動訓練、航空医療搬送訓練、指揮所活動訓練を実施

②同志国等との共同訓練(3/6)

日仏共同訓練(2023年7月)@新田原基地等

空中給油訓練

日仏共同訓練記念式典

仏航空宇宙軍Ａ３３０ＭＲＴＴ

- ➢日本国内において、初となるフランス航空宇宙軍との共同訓練
- ➢「自由で開かれたインド太平洋」実現のため、日仏空軍種が一層積極的に取り組む姿を顕示
- ➢近年、フランス航空宇宙軍が主催する防空に関する演習へのオブザーバー参加、宇宙分野の演習への参加等の実績

②同志国等との共同訓練(4/6)

日伊共同訓練(2023年8月)@小松基地

日伊共同記者会見

Welcome Flight

部隊視察

- ➢日本国内において、初となるイタリア空軍との共同訓練
- ➢「自由で開かれたインド太平洋」実現のため、日伊空軍種が一層積極的に取り組む姿を顕示
- ➢F－35やKC－767など共通の装備が多いイタリア空軍と、空軍種間トップ同士の相互訪問、空中給油機を運用する部隊間の交流、パイロット学生を派遣する等、あらゆるレベルにおける交流が進展

②同志国等との共同訓練(5/6)

空自戦闘機(F-35A)米豪機動展開訓練(2023年8月)
@米国グアム島アンダーセン空軍基地～豪州ティンダル空軍基地

ティンダル空軍基地到着

豪空軍飛行隊長による出迎え

- ➢航空自衛隊のF-35Aによる初の国外機動展開訓練
- ➢オーストラリア連邦へのローテーション展開及び国外共同訓練を見据えた機動展開能力の向上を図ることを目的
- ➢長距離航法訓練及び空中給油訓練を実施
- ➢日豪円滑化協定を初適用

②同志国等との共同訓練(6/6)

日豪共同訓練(武士道ガーディアン)(2023年9月)@小松基地

日豪円滑化協定記念式典

姉妹飛行隊署名式

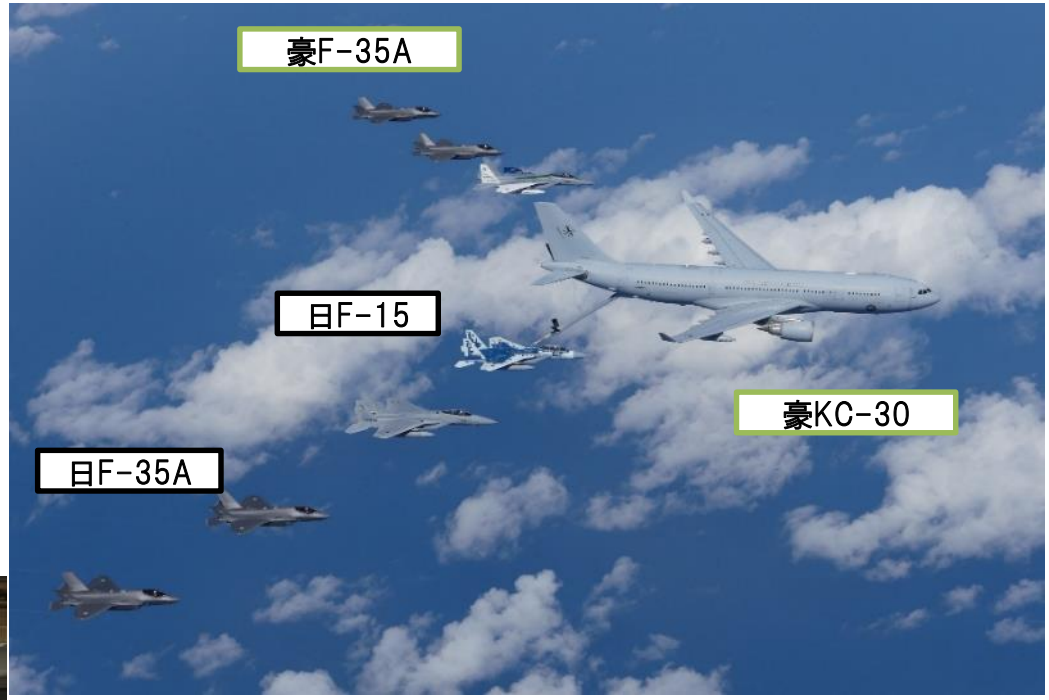


PHOTO EX

- ➢日本における日豪共同訓練は、2019年以来、2回目
- ➢日豪空軍種間の相互運用性を強化し「自由で開かれたインド太平洋」の実現に寄与

③能力構築支援及び多国間防衛協力(1/2)

- ➢ASEAN各国等の能力向上に資する能力構築支援等を実施
- ➢国際航空法、航空気象、航空医学、飛行安全、航空救難、人道支援・災害救援及びサイバーセキュリティの7分野
- ➢日ASEAN防衛協力の指針であるﾋﾞｴﾝﾁｬﾝ･ﾋﾞｼﾞｮﾝ2.0の下、日ASEAN空軍種間の信頼醸成を目的とした招へい事業「ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ･ｴｱﾏﾝｼｯﾌﾟ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」を実施

スリランカ

・航空救難

➢ 2023年8月はオンラインで実施

ベトナム

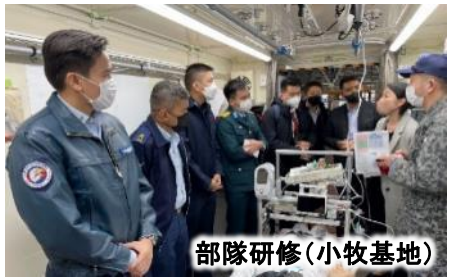
- ・航空救難
- ・サイバーセキュリティ
- ・飛行安全
- ・国際航空法
- ・航空医学

タイ

- ・飛行安全
- ・国際航空法

ASEAN

・HA/DR

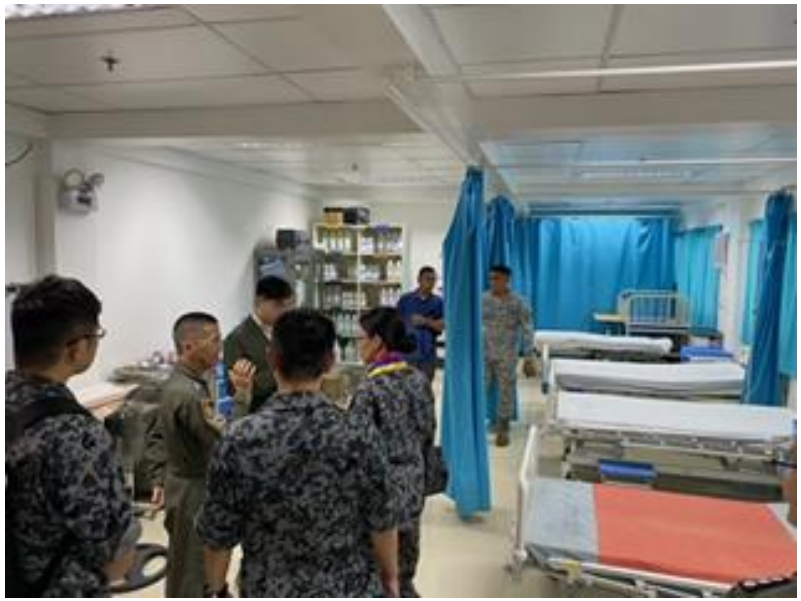


HA／DR（Humanitarian Assistance / Disaster Relief）人道支援・災害救援

③能力構築支援及び多国間防衛協力(2/2)

2024.1　モンゴル(調整出張)（航空保安管制）

2023.3　ベトナム（派遣)(航空救難）



2023.8　フィリピン(調整出張)（航空医学）

2023.6　スリランカ(調整出張)（航空救難）

Ⅲ　航空自衛隊の将来体制の方向性

1　国家安全保障戦略･国家防衛戦略･防衛力整備計画

2　航空防衛力発揮の要となる各機能と7つの重視分野の関係

3　令和6年度主要事業

1　国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画

これまでの戦略文書体系

国家安全保障戦略（2013年）

外交政策及び防衛政策を中心とした
国家安全保障の基本方針
（概ね10年程度の期間を念頭）

防衛計画の大綱（2018年）

防衛力の整備、維持、運用の基本指針
防衛力の水準　（自衛隊の体制）
（概ね10年程度の期間を念頭）

中期防衛力整備計画（2018年）

5ヵ年の経費の総額の限度・主要装備の
整備数量

今般の戦略文書体系

国家安全保障戦略

外交、防衛に加え、経済安保、技術、
サイバー、情報等の安全保障に関連する
分野の諸政策に戦略的な指針を与える
もの（概ね10年程度の期間を念頭）

国家防衛戦略

防衛の目標を設定し、それを達成する
ための方法と手段
（概ね10年程度の期間を念頭）

航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とする。

防衛力整備計画

保有すべき防衛力の水準
（①概ね10年後の体制及び②5ヵ年の
経費の総額・主要装備品の整備数量）

将官を指揮官とする宇宙専門領域部隊を新編するとともに、航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とする。

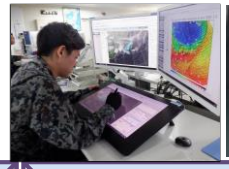
2　航空防衛力発揮の要となる各機能と7つの重視分野の関係

Command &Control
ＪＡＤＧＥ等

運用支援機能
航空輸送、空中給油、航空救難等

Sensors
地上・空中レーダー等

Shooters
戦闘機・地対空誘導弾等



運用基盤機能
整備、施設、管制、気象等

①スタンド・オフ防衛能力	②統合防空ミサイル防衛能力	③無人アセット防衛能力	④領域横断作戦能力	⑤指揮統制・情報関連機能	⑥機動展開能力・国民保護	⑦持続性・強靭性

3　令和6年度主要事業　①スタンド･オフ防衛能力

スタンド･オフ･ミサイルの取得

➢JSM※1（イメージ）

➢JASSM※2（イメージ）

発射プラットフォームの取得･改修等

➢F-35A能力向上改修（イメージ）

➢F-15能力向上改修（イメージ）

➢F-2能力向上改修

※1　JSM: Joint Strike Missile
※2　JASSM: Joint Air-to-Surface Stand-Off Missile

3　令和6年度主要事業　②統合防空ミサイル防衛能力

警戒管制能力の強化

- ➢FPS－5、FPS－7の機能付加
- ➢FPS－3からFPS－7への換装
- ➢JADGEの能力向上
- ➢移動式警戒管制レーダー（TPS－102A）の取得

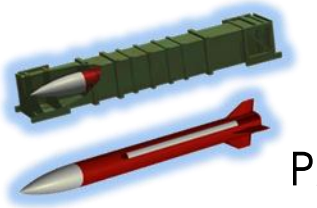
FPS-5

FPS-7

TPS-102A

迎撃用誘導弾の整備

- ➢PAC－2GEM及びPAC－3ミサイルの再保証
- ➢基地防空用地対空誘導弾の取得


PAC-2GEM（イメージ）

PAC-3（イメージ）

基地防空用地対空誘導弾

戦術無人機の運用に向けた実証研究

戦術無人機
（イメージ）

3　令和6年度主要事業　④領域横断作戦能力(1/4)

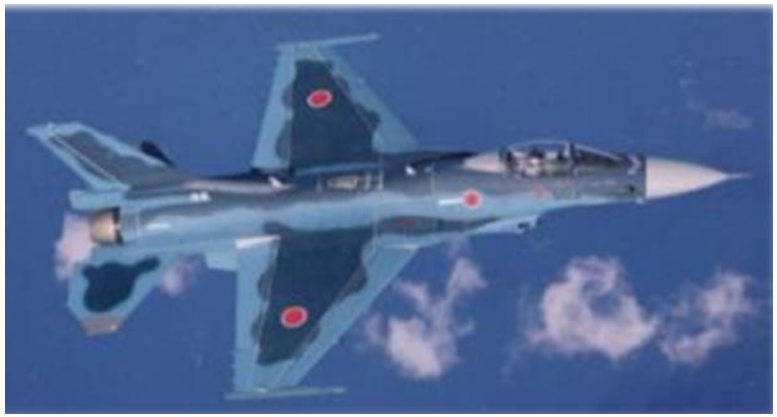
航空領域の能力強化

➢F-35A取得

➢F-35B取得(イメージ)

➢F-15能力向上改修(イメージ)

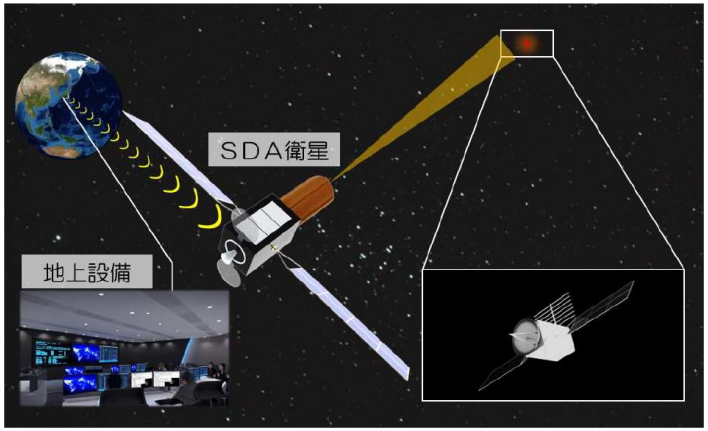
➢F-2能力向上改修



3　令和6年度主要事業　④領域横断作戦能力(2/4)

宇宙領域の能力強化

➢SDA※衛星の整備(イメージ)



➢宇宙作戦指揮統制サービス等の整備(イメージ)

※　SDA(Space Domain Awareness):衛星など宇宙物体の位置や軌道等を把握する宇宙状況把握に加え、宇宙機の運用・利用状況及びその意図や能力を把握すること。

宇宙作戦群　改編

約200名

2024年3月

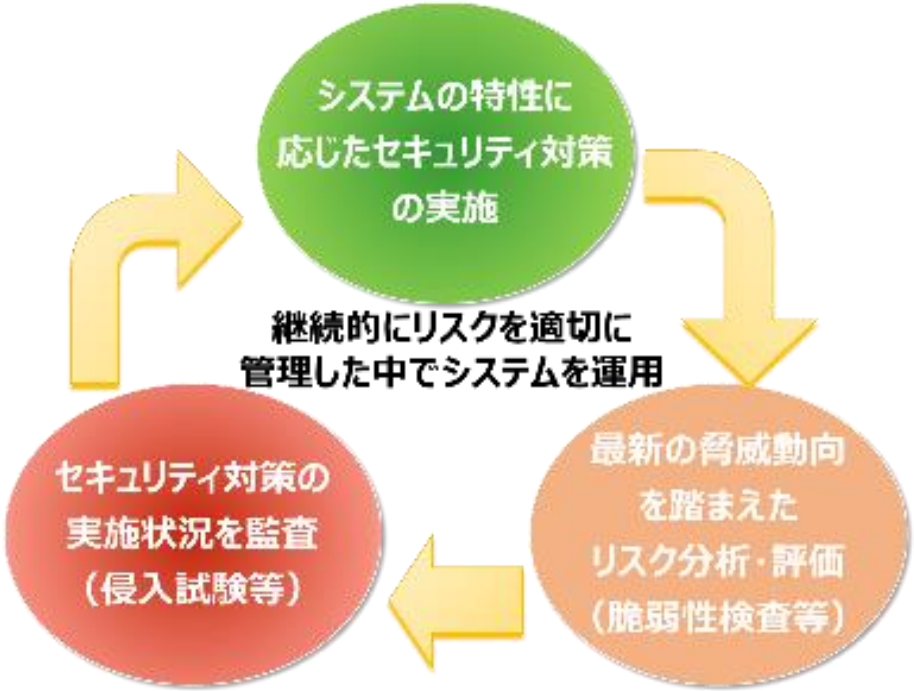
- 宇宙作戦群
  - 群本部
  - 宇宙作戦指揮所運用隊
  - 第1宇宙作戦隊
  - 第1宇宙システム管理隊
  - 第2宇宙作戦隊
  - 第2宇宙システム管理隊

➡ 約300名へ拡大

3　令和6年度主要事業　④領域横断作戦能力(3/4)

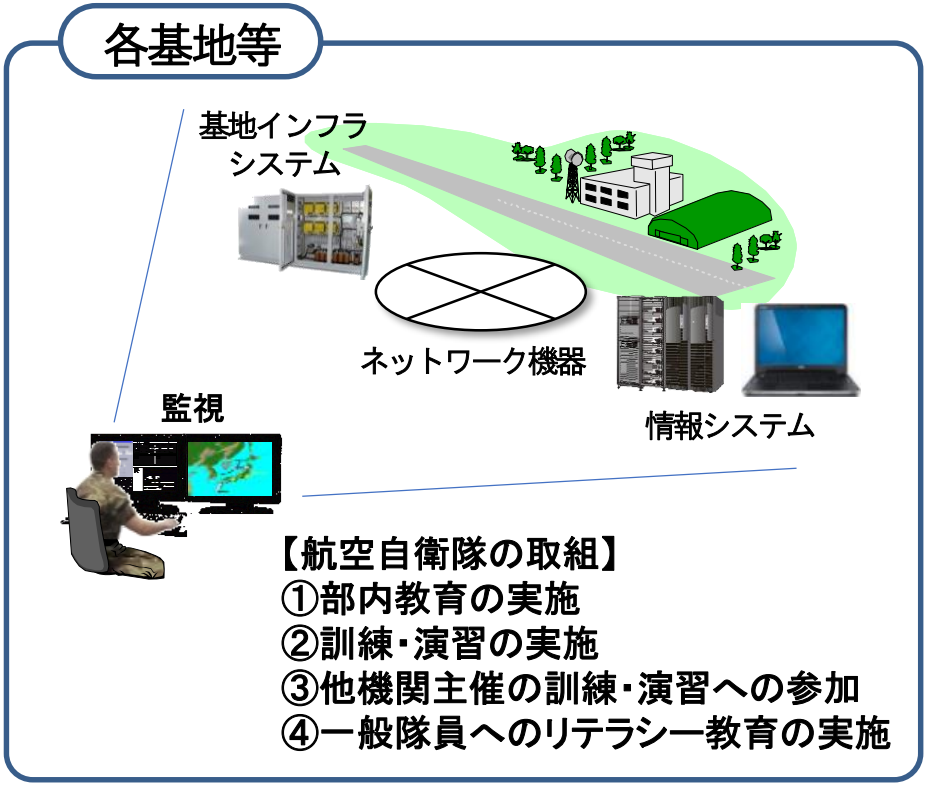
サイバー領域の能力強化

➢RMF(リスク管理枠組み)に必要な施策等の推進



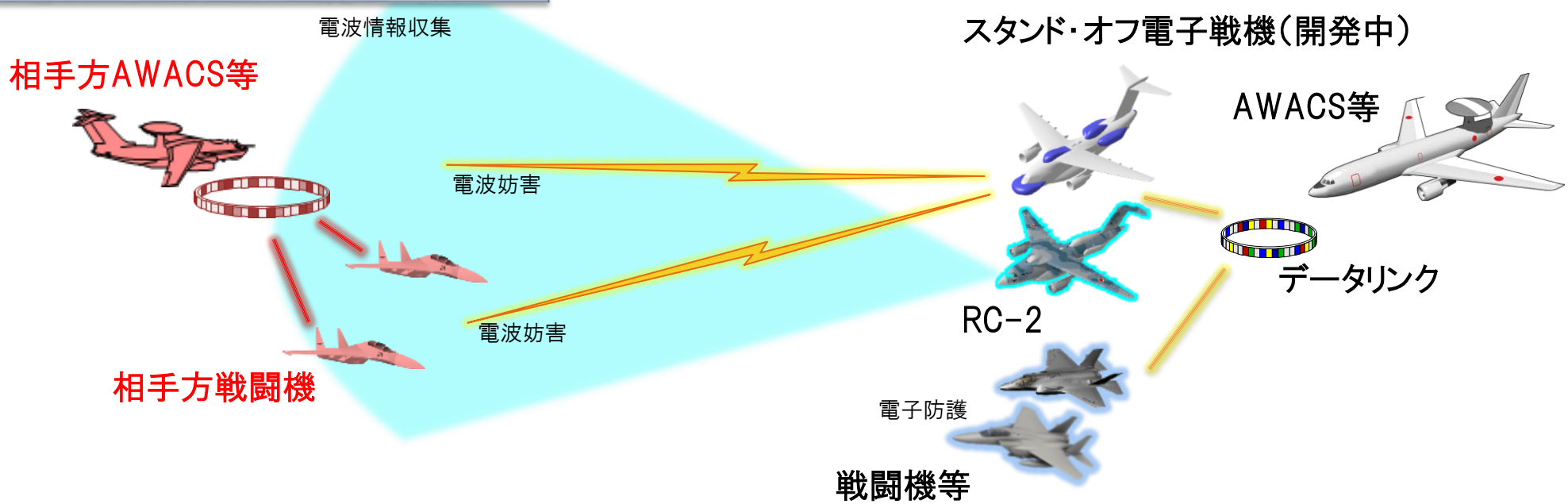
リスク管理枠組み（イメージ）

➢サイバー人材育成



3　令和6年度主要事業　④領域横断作戦能力(4/4)

電磁波領域の能力強化



➢電子戦支援能力の強化
・電波情報収集機 RC-2(搭載通電機器等を含む。)の取得

➢電子防護能力の強化
・F-35A及びF-35Bの取得、F-15及びF-2の能力向上

➢電子攻撃能力の強化
・スタンド・オフ電子戦機の開発
（令和2年度から開発、令和8年度に開発完了予定）

3　令和6年度主要事業　⑤指揮統制・情報関連機能

防衛駐在官の拡充

➢令和6年度末予定　22名
在勤20大使館1代表部

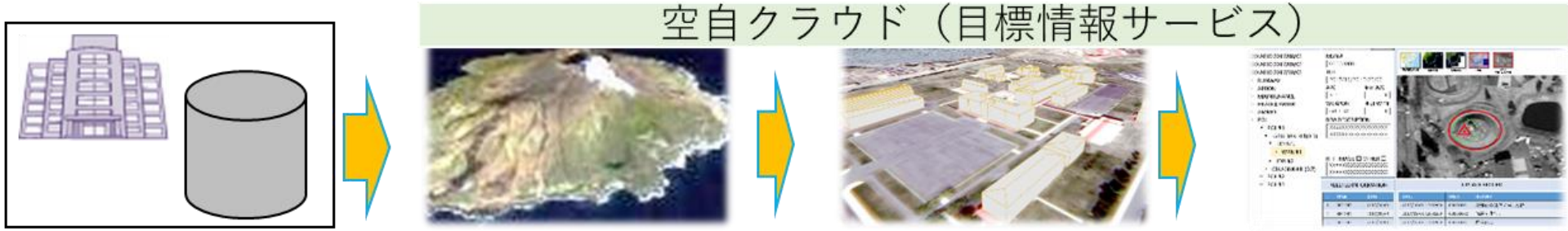
情報収集・分析用器材の維持・整備

➢移動型電波測定装置の整備（イメージ）

アンテナ（高周波数帯）　アンテナ（低周波数帯）　通信制御

情報システムの維持整備

➢空自クラウド（目標情報サービス）の整備



空自クラウド（イメージ）

3　令和6年度主要事業　⑥機動展開能力・国民保護

輸送機等の増勢

➢輸送ヘリコプター（CH-47J）の取得

CH-47J

民間空港等の活用

●自衛隊の機動展開や国民保護の実効性を高める

➢既存の空港等を平時から円滑に利用できるようインフラ管理者との間で「円滑な利用に関する枠組み」を設ける（特定利用空港・港湾）

➢「特定利用空港・港湾」においては、民間利用を主としつつ、自衛隊等の円滑な利用にも資するよう、必要な整備又は既存事業の促進を図る

民間空港利用実績の一例（令和5年度自衛隊統合演習（2023年11月））

岡山空港へ展開するF-2

大分空港へ展開するF-2

3　令和6年度主要事業　⑦持続性・強靭性(1/2)

弾薬の確保

➢中距離空対空ミサイル
　AIM-120(F-35A/B、F-15能力向上改修機)
　AAM-4B(F-2及びF-15)

➢空対艦ミサイル
　ASM-3A(F-2)

AIM-120（イメージ）

AAM-4B（イメージ）

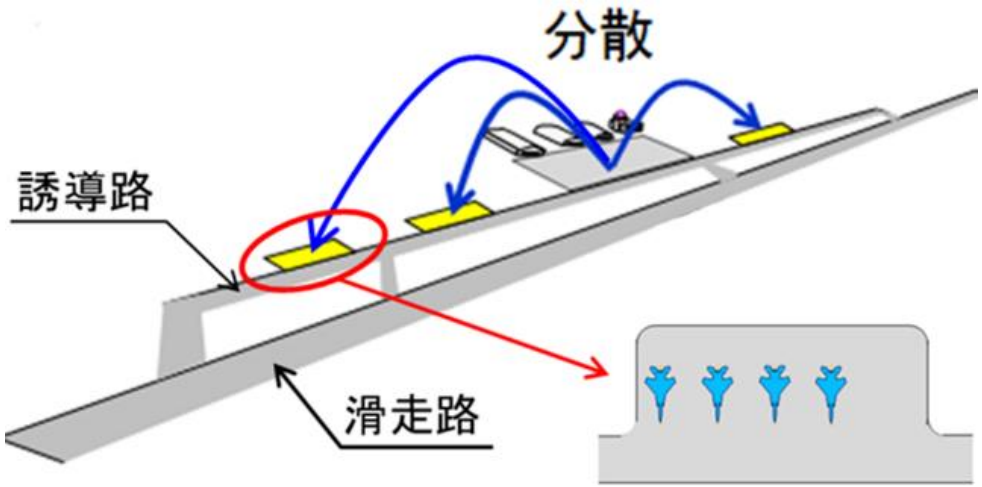
ASM-3A（イメージ）

装備品等の維持整備

3　令和6年度主要事業　⑦持続性・強靭性(2/2)

施設の強靭化

- ➢最適化事業
- ➢災害対策
- ➢司令部の地下化等
- ➢部隊新編・新規装備品導入に係る施設整備等



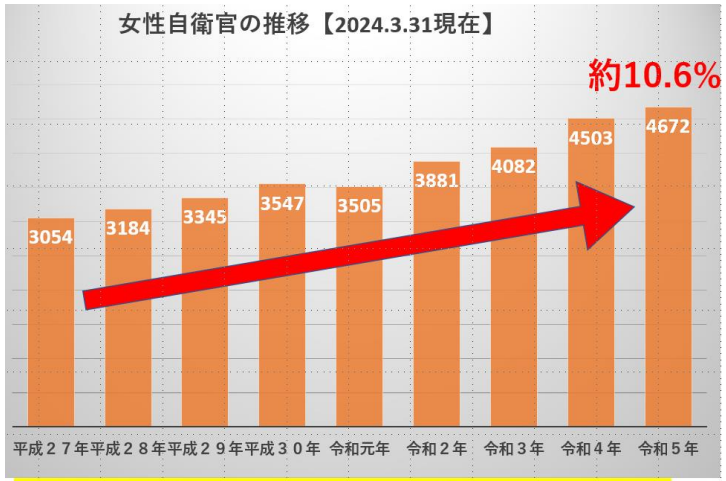
一例：戦闘機用分散パッド（イメージ）

一例：既存施設の更新（イメージ）

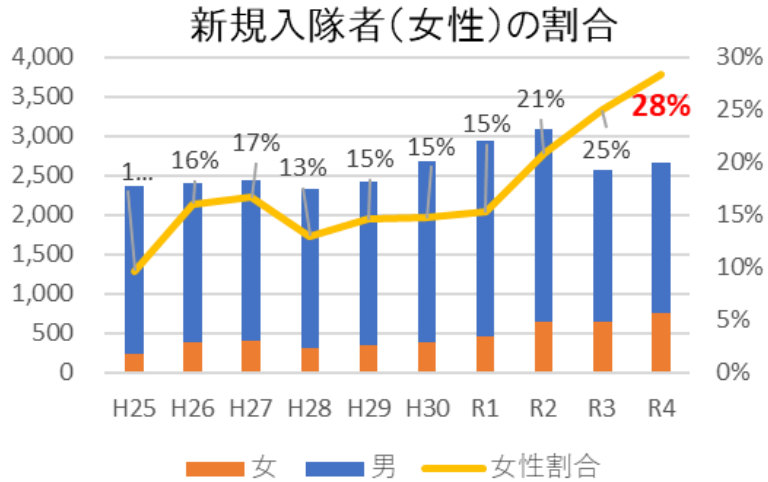
３　令和6年度主要事業　防衛力を支える要素(1/2)

人的基盤の強化

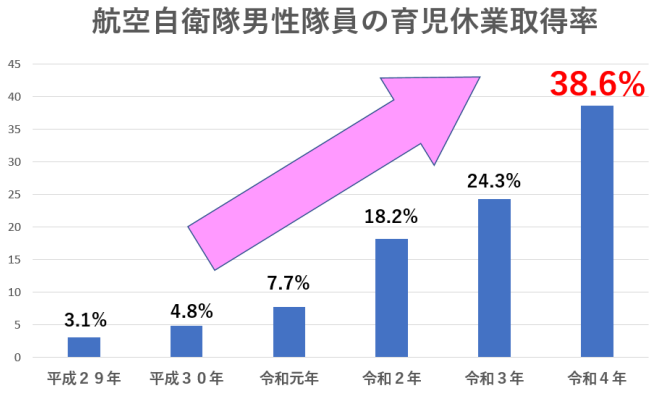
➢女性活躍の推進



目標：２０３０年までに約１５％



➢職業生活と家庭生活の両立支援



政府全体目標：２０２５年までに３０％

航空自衛隊としては達成！！！

庁内託児施設（Jキッズスカイ入間）

緊急登庁支援

3　令和6年度主要事業　防衛力を支える要素(2/2)

衛生機能の強化

➢第一線救護能力等の強化

第一線救護衛生員等の養成訓練

航空後送間救護訓練

➢戦傷者の後送間救護能力の強化
- ・遠隔医療支援用器材の取得
- ・航空搬送用医療器材等の取得

航空医療搬送訓練の状況

遠隔医療支援(イメージ)

3　令和6年度主要事業　安全保障協力の強化

日米共同訓練等への参加

- ➢CN　：日米豪共同訓練（コープ・ノース）【米、グアム】
- ➢PB　：ピッチ・ブラック【豪、ダーウィン空軍基地等】

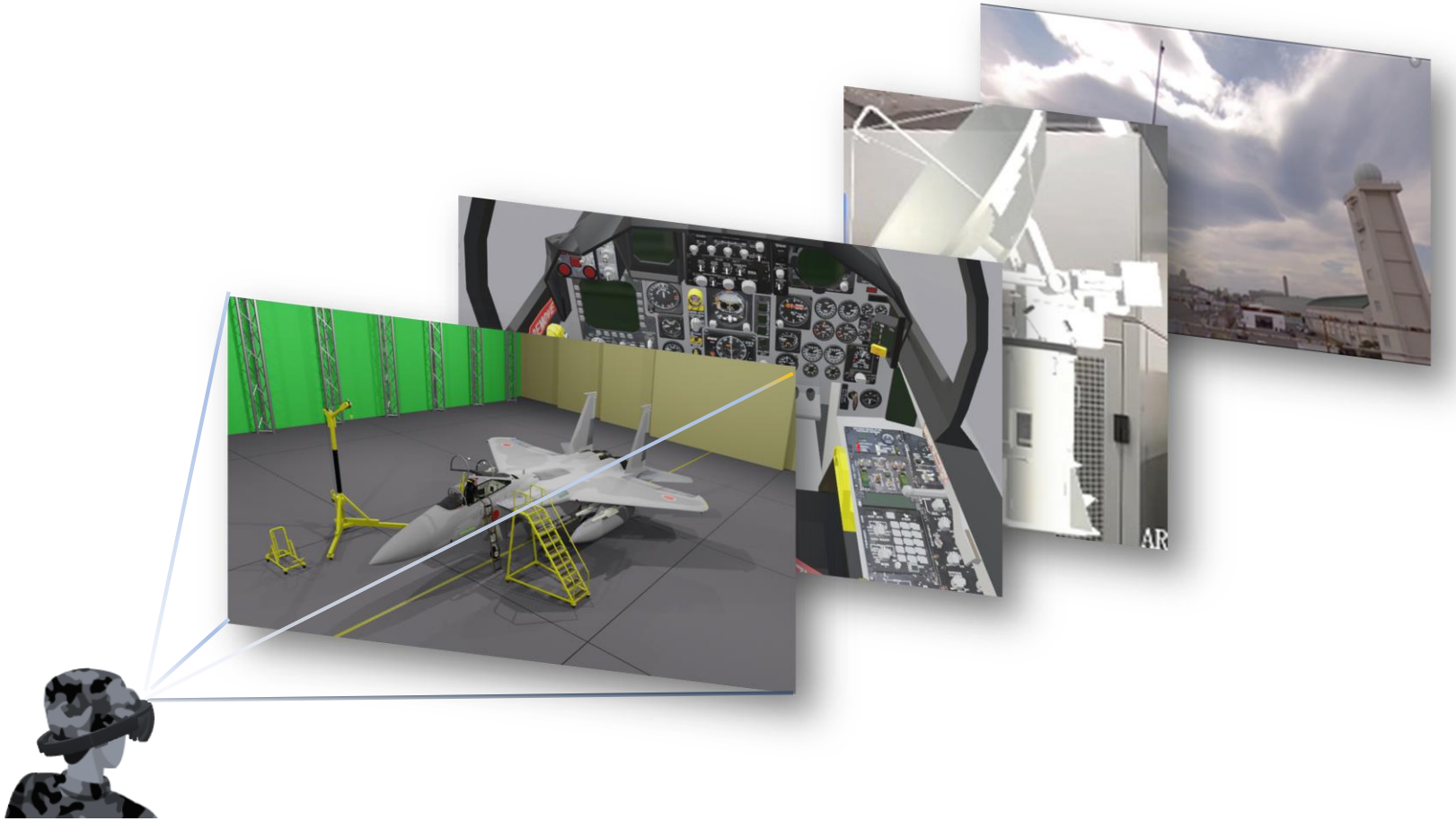
日米豪共同訓練（CN24）

ピッチ・ブラック（PB22）

3　令和6年度主要事業　早期装備化のための新たな取組

教育のDX※1に係る態勢整備

➢学校教育にかかるDXを推進



XR※2（航空機整備員教育、気象教育等）コンテンツのイメージ
ゴーグル等を装着し、空間上に装備品や器材を表示させ、構造や操作、整備要領等について学習する。

※1 DX: Digital Transformation：デジタル技術を使用して、業務プロセスや組織文化等を創造し、変わり続ける組織ニーズを満たす変革のプロセス
※2 XR: Cross Reality　VR（Virtual Reality：仮想現実）、AR（Augmented Reality：拡張現実）及びMR（Mixed Reality：複合現実）の総称

3　令和6年度主要事業　最適化への取組

注：金額は契約ベース。

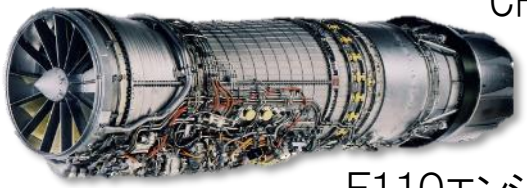
長期契約による一括調達

➢輸送ヘリコプター（CH－47J）の取得
5機を8国で取得（縮減見込額：87億円）

➢PAC－2GEMの再保証
複数年間で必要となる弾数を、6国で再保証
（縮減見込額：307億円）

➢F110エンジン維持部品包括契約（F－2用）
需給予測に基づく、リードタイムの保証※が
設定された包括契約（縮減見込額：108億円）

CH-47J輸送機



F110エンジン(F－2用)

長期契約以外の一括調達

➢F－15能力向上用EGI（Embedded INS/GPS）の取得
補用品分も併せて一括で取得

➢PAC－3ミサイルの再保証
所要の弾数分の再保証を一括取得

PAC-3（イメージ）

※リードタイムの保証：部品納入に係る取得期間を予め設定し、当該期間内での部品供給を保証させるもの。

Ⅳ トピックス

1 宇宙領域に係る取組の状況

2 次期戦闘機に係る取組の状況

3 偵察航空隊(RQ-4B)の態勢整備

4 地域との交流・連携

5 ハラスメント防止への取組

6 人材確保に関する取組

7 無人化・省人化・最適化への取組

8 常設の統合司令部の創設について

1　宇宙領域に係る取組の状況（様々な主体との連携強化（JAXA及び同盟国・同志国）

- 2023(令和5)年12月　～
  連合宇宙作戦イニシアチブ(CSpO)への参加
  ※　CSpO：Combined Space Operations Initiative

- 2023(令和5)年5月　～
  米宇宙コマンド司令部へ航空自衛官の派遣(ピーターソンSFB)

【防衛力整備計画(令和5年度～令和10年度)】
■JAXA等の関係機関や米国等の同盟国・同志国との連携強化

- 2022(令和4)年6月　～
  JAXAへの航空自衛隊員の追加派遣(筑波＋東京事務所)

- 2020(令和2)年10月　～
  米宇宙コマンド多国間調整所への航空自衛官派遣(ﾊﾞﾝﾃﾞﾝﾊﾞｰｸﾞSFB)

- 2018(平成30)年10月　～
  シュリーバー演習への参加(マクスウェルAFB)

【中期防衛力整備計画(平成31年度～平成35年度)】
JAXA等の関係機関や米国等の関係国との協力

- 2017(平成29)年度　～
  JAXAへの航空自衛隊員の派遣(追跡ネットワーク技術センター)

1　宇宙領域に係る取組の状況（様々な主体との連携強化（民間企業等））

衛星運用事業者へのSSA情報提供

- ➢2023年3月から、衛星運用事業者に対して航空自衛隊のSSA情報を提供開始
- ➢事業者が運用する各衛星の周囲にある他の衛星及びスペースデブリなどの軌道情報や接近分析情報などを提供

宇宙協力オフィス（Space Collaboration & Innovation Office）

- ➢2023年10月から、虎ノ門ヒルズ内に民間との協力を行うための「場」として、小規模オフィスを借り上げ
- ➢宇宙関連の高い技術力を有する民の知見を官が吸収し、将来の態勢整備に反映するとともに、官民協力の推進により、相乗的に我が国の宇宙力を高めることを期待

次期戦闘機の日英伊共同開発（GCAP）

※GCAP: Global Combat Air Programme

- ➢次期戦闘機については、「国際協力を視野に我が国主導の開発」を行うとの方針のもと、F-2が退役を開始する2035年頃に初号機を配備するべく、2020年10月、開発に着手
- ➢2022年、日英に、英国の開発パートナー国であるイタリアを加えた3ヵ国で、機体の共通化の程度に係る共同分析等を実施
- ➢2022年12月9日、3ヵ国各々の優れた技術を結集した共通の機体を開発することにより、開発コストやリスクを日英伊で最大限分担しつつ、将来にわたって我が国の航空優勢を確保できる戦闘機を共同開発する旨、首脳声明により公表

※画像はあくまでイメージであり、最終的に決定されたものではない。

2　次期戦闘機に係る取組みの状況

日英伊防衛相会談（2023（令和5）年3月16日）

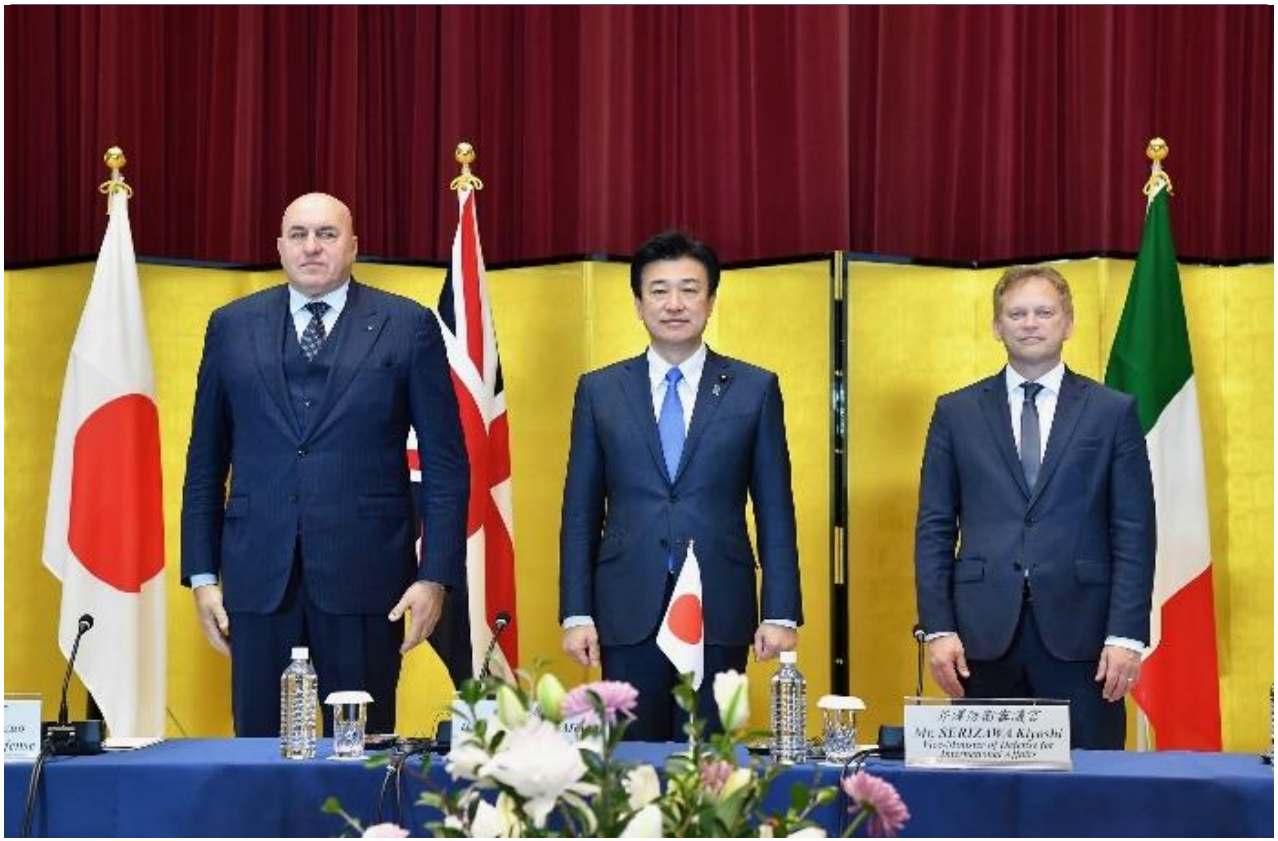
- 浜田大臣から、次期戦闘機の共同開発は、3ヵ国の優れた技術を結集し、最新鋭の戦闘機を開発することにより、最先端の技術や優れた次世代の人材を生む、意義のある事業であるとして、本プロジェクトを成功させることに対する強い決意を表明
- ウォレス英国防大臣及びクロセット伊国防大臣からも同様の決意が表明されるとともに、3ヵ国が結束して開発に向けた様々な課題を乗り越える確固たる意志を表明

2　次期戦闘機に係る取組みの状況

日英伊防衛相会合（2023（令和5）年12月14日）

- ➢グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）政府間機関（以下、GIGO）の設立に関する条約への署名
- ➢GIGOの本部は英国とし、GIGOの初代首席行政官は日本人、共同事業体制の初代トップはイタリア人とすることで合意

GIGO: GCAP International Government Organisation



2　次期戦闘機に係る取組みの状況

➢航空自衛隊は、**開発主管の防衛装備庁と緊密に連携**しつつ、ユーザーニーズを反映させるとともに、英国、イタリア両国とも協力

英空軍参謀長　ナイトン大将

伊空軍参謀長　ゴレッティ大将

３　偵察航空隊（RQ－4B）の態勢整備

➢2022年12月に偵察航空隊を新編、初飛行を実施し、態勢整備を推進
➢2023年6月末に3機目のRQ－4B（グローバルホーク）が三沢基地に到着
　3機体制が完整
➢現在、操縦者等を順次養成中

1機目 三沢到着

飛行開始（令和4年12月）

3機目 三沢到着（令和5年6月）

操縦要員の養成（シミュレータ訓練）

RQ-4Bの性能諸元	
全長×全幅	約１５m×約４０m
重量 （ペイロード）	約１４．６t （約１．３ｔ）
最大巡航速度	約５７０ｋm／ｈ
航続時間	約３６ｈ
最大高度	約６０，０００ｆｔ

4　地域との交流･連携

ブルーインパルスの展示飛行

➢ブルーインパルスの展示飛行を通じて、自衛隊に対する信頼感等の醸成及び部外広報に寄与

防災訓練への参加

➢防災訓練への参加を通じて、自治体等との連携体制を構築し、相互の災害対処能力向上に寄与

高射部隊による機動展開訓練

➢弾道ミサイル対処に係る戦術技量の向上及び自衛隊の即応態勢を示すことで、国民の安全･安心感の醸成に寄与

音楽隊による広報演奏等

➢防衛省の式典、全国各地での広報演奏、演奏技術指導により、自衛隊の広報宣伝及び自治体等との良好な関係の構築に寄与

5　ハラスメント防止への取組

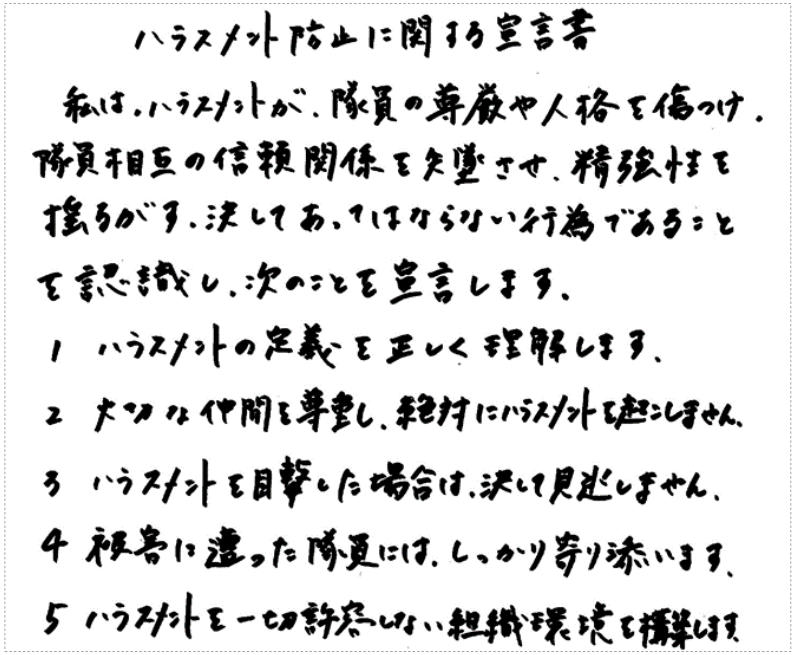
➢有識者会議の提言等を真摯に受け止め、**ハラスメントを一切許容しない環境の構築**に向け、積極的な取組を継続

現場部隊における空幕長自身の言葉による直接的なメッセージの発信

「ハラスメントは隊員相互の信頼を失わせ、精強性を揺るがす行為であり、決してあってはならない。」
「大声は、挨拶、号令、緊急時！」（パワハラ防止）
「親しき仲にも節度あり。」（セクハラ防止）

ハラスメント防止月間における空自の取組み（令和6年1月4日～2月3日）

- ライフ＆ワーク・エンゲイジメントに関する意識の向上（隊員一人ひとりの心理的安全性を確保）
- ハラスメントの対応要領等に係る正確な知識の定着
- 全隊員がハラスメント防止宣言書を肉筆で記載



ハラスメント防止に関する宣言書

私は、ハラスメントが、隊員の尊厳や人格を傷つけ、隊員相互の信頼関係を失墜させ、精強性を揺るがす、決してあってはならない行為であることを認識し、次のことを宣言します。

1 ハラスメントの定義を正しく理解します。
2 大切な仲間を尊重し、絶対にハラスメントを起こしません。
3 ハラスメントを目撃した場合は、決して見逃しません。
4 被害に遭った隊員には、しっかり寄り添います。
5 ハラスメントを一切許容しない組織環境を構築します

ハラスメントを一切許容しない環境を構築、定着

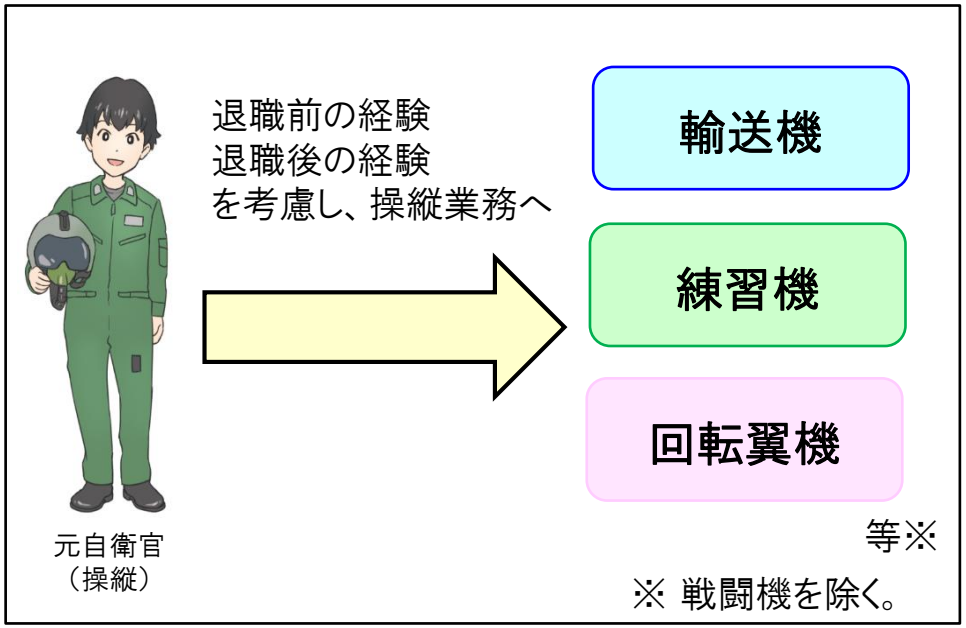
6　人材確保に関する取組み（定年等自衛官の操縦士の再任用）

➢定年退職及び中途退職した自衛官を、退職前の勤務成績等に基づく選考により再任用する制度

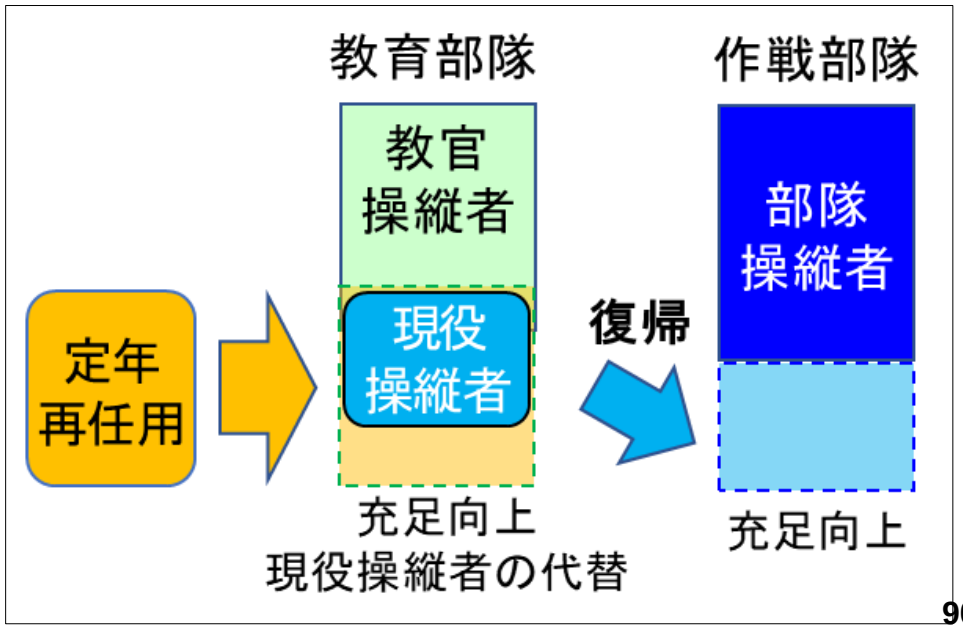
【操縦士の再任用に係る制度】
2023年度から操縦士への適用を開始
（定年・元自衛官の再任用）

定年自衛官（教官操縦者）の再任用

元自衛官（操縦）の再任用（イメージ）



定年自衛官（教官操縦者）の再任用（イメージ）



7　無人化･省人化･最適化への取組み

Ｔ－4練習機の整備業務部外委託

VR技術を活用した遠隔地からの整備支援

クラウド技術による情報システム統合･一括監視

術科教育用器材のXR化

7　無人化･省人化･最適化への取組み

○整備基盤がない飛行場

○機動展開、国外運航･訓練

○レーダーサイト(離島･僻地)

遠隔地の現場

※スマートグラス装着時

リモート
支援

母基地部隊

製造修理会社

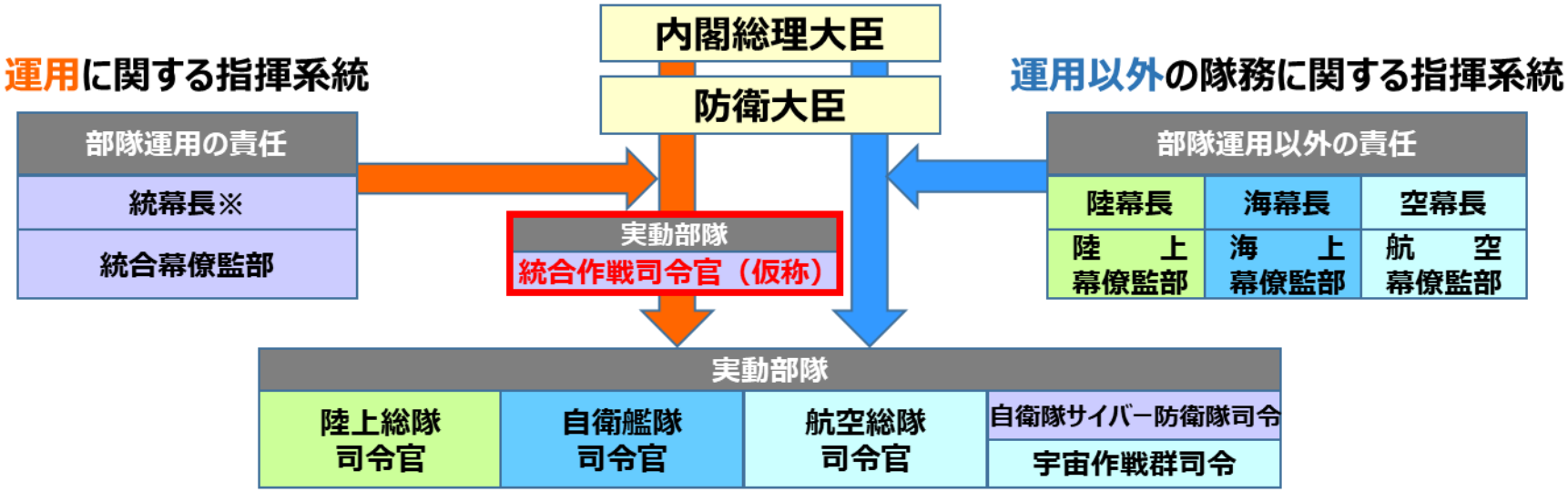
持続可能な優れた後方基盤を構築

8　統合作戦司令部（仮称）の創設について

課題	①臨時の統合任務部隊では情勢の推移に応じたシームレスな対応が困難 ②領域横断作戦を実施し得る統合運用態勢の確立が不十分 ③インド太平洋軍司令部と調整する機能が不足

解決するために → 陸海空自衛隊の一元的な指揮を行い得る統合作戦司令部（仮称）を創設

新たな自衛隊の運用体制（イメージ）



【統合作戦司令官（仮称）の地位・役割】
　自衛隊の運用に関し、大臣の命令を受け、平素から部隊を一元的に指揮し、所要の指揮官に任務を付与、必要な戦力を各指揮官に配分し、作戦の指揮を行う指揮官
【統合幕僚長】
　自衛隊の運用に関し、最高の専門的助言者として、引き続き大臣を補佐するとともに、大臣の命令を統合作戦司令官（仮称）に執行させる大臣の幕僚として存在

航空自衛隊

【HP】https://www.mod.go.jp/asdf/　【X(旧Twitter)】https://twitter.com/JASDF_PAO
【Facebook】https://www.facebook.com/jasdf.pao/　【Instagram】https://instagram.com/jasdf_pao
【YouTube】https://www.youtube.com/user/JASDFchannel